

目 次

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	
① 学生の確保の見通し	
ア 定員充足の見込み	・・・p. 1
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	・・・p. 3
ウ 学生納付金の設定の考え方	・・・p. 4
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	
ア 高校訪問・高校での進路ガイダンス	・・・p. 4
イ オープンキャンパス	・・・p. 5
ウ 保護者向け講座	・・・p. 5
エ 広報活動	・・・p. 6
(2) 人材需要の動向等社会の要請	
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	
ア 教育研究上の目的	・・・p. 6
イ 養成する人材像	・・・p. 6
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	
ア 企業対象のアンケート調査	・・・p. 7
イ 飯能市との意見交換	・・・p. 8

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

駿河台大学スポーツ科学部スポーツ科学科の入学定員は200人とし、編入学定員を設けず、収容定員を800人とする。

(ア) 全国的な状況、近隣の状況

リクルート進学総研の「18歳人口予測（南関東：2018年～2030年）」によると、全国の18歳人口は、平成30（2018）年の118万人から平成42（2030）年には13.2万人減少し、104.8万人になると予測されている。

また、18歳人口の動向をエリア別で見ると「南関東エリア」では、平成30（2018）年の305,851人から平成42（2030）年には288,607人となり、13年間で17,244人減少となることが予測されている。

一方、本学が所在している埼玉県は、平成30（2018）年の65,547人から平成42年（2030）年には59,799人となり、平成30年を100とした場合の割合は、91.2%となる。同様の全国規模での割合は、88.8%であり、全国的に人口減少が進行する中でも、本学の立地条件は人口減少の影響を受けにくいことが見てとれる。**（資料1 18歳人口予測（南関東：2018～2030））**

また、高等学校（全日制・定時制）卒業者と大学・短期大学進学者数でみると、平成30（2018）年度学校基本調査によれば、平成30（2018）年3月の全国の高等学校（全日制・定時制）卒業者は105万6,378人、うち大学等進学者数が57万8,041人、大学・短期大学進学率は54.7%で、昨年度と同率であった。

一方、本学が所在している埼玉県は、平成30（2018）年3月卒業者が5万6,970人、うち大学等進学者数が3万2,572人、大学・短期大学進学率は57.2%であり、全国平均と比較すると進学率が高い傾向にある。**（資料2 高等学校(全日制・定時制)卒業後の状況調査）**

大学の規模別でみると、日本私立学校振興・共済事業団「平成30（2018）年度私立大学・短期大学等入学志願動向」によれば、本学が該当する入学定員が800人以上1,000人未満の大学の入学定員充足率は、平成29（2017）年度107.19%、平成30（2018）年度109.42%となっており、昨年度と比べ2.23ポイント上昇している。**（資料3 平成30（2018）年度私立大学・短期大学等入学志願動向 規模別）**

近隣の状況として、埼玉県内で学部又は学科名称に「体育」「スポーツ」がつく大学6校の入学定員の合計は1,345人となっている。志願者数は非公開の1大学を除いても

約 10,000 人おり、スポーツを学ぶことのニーズは高いと考えられる。なお、平成 30 (2018) 年度は立教大学、東洋大学、大東文化大学が定員未充足となっているが、それぞれ志願者数は入学定員の 12 倍以上いることから、計画的な入学者抑制の結果であると推察される。以上のことから、18 歳人口の減少期においても、埼玉県内を主なターゲットとしたスポーツ分野は安定した志願者数の確保と定員充足を担保できる状況にある。(資料 4 埼玉県内の学部等の名称に「体育」「スポーツ」がつく大学一覧)

(イ) 本学の状況

本学の既設学部の入試状況を見てみると、平成 30 (2018) 年度の入試結果では、全学部の入学定員の合計 910 人に対し、志願者総数が 2,773 人、志願倍率が 3.05 倍、入学者数が 1,082 人、入学定員充足率が 1.19 倍であった。

また、過去 5 年間の志願者数の推移を見てみると、平成 26 (2014) 年度が 1,545 人、平成 27 (2015) 年度が 1,472 人、平成 28 (2016) 年度が 1,464 人であったが、全学挙げての教育改革や学部学科再編を行った結果、平成 29 (2017) 年度が 1,770 人、平成 30 (2018) 年度には、上述のとおり志願者が 2,773 人に増加した。(資料 5 既設の学部等の定員充足状況)

(ウ) 既設の学部（現代文化学部）の確保状況

既設の学部である現代文化学部では、設置の趣旨でも述べているとおり、平成 21 (2009) 年より、スポーツ文化コースを設置した。その後、平成 29 (2017) 年カリキュラムにおいて新たに「スポーツキャリアコース」を設置した。平成 30 (2018) 年の入学者 192 人に志望コースの調査を行った結果、147 人 (76.5%) が「スポーツ文化コース」と「スポーツキャリアコース」のいずれかを志望する状況となっていることから、現代文化学部の入学者状況は、スポーツ科学部の学生確保の見通しの指標と見ることができる。(資料 6 既設の学部（現代文化学部）のコース志望状況)

現代文化学部の入学者状況において、スポーツ文化コースを設置した平成 21 (2009) 年以降を見ると、定員超過率は、設置認可申請のために計画的な定員充足を図った平成 30 (2018) 年度を除き 1.0 倍を超えている。平成 28 (2016) 年は 205 人、平成 29 (2017) 年は 206 人と予定定員の 200 人を超えており、長期的かつ安定的に入学定員を上回る入学希望者を確保している。(資料 7 既設の学部（現代文化学部）の定員充足状況)

(エ) 受験対象者へのアンケート調査

本学では、スポーツ科学部の入学者の確保について検証するために、高校 2 年生 (平成 30 (2018) 年 12 月時点) を対象とした「駿河台大学『スポーツ科学部』(仮称) 設置に関するニーズ調査」を実施した。この調査結果によると、「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」という入学意向を示した者の数は、716 人に達している。このことから、ここに設置認可申請を行ったスポーツ科学部については、開設時の入学

者として想定される高校生から強い入学意向が示されており、200人の入学定員の設定は適切であると判断される。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本学では、スポーツ科学部設置認可申請に先立ち、平成30(2018)年12月に全国の本学の入学実績のある高等学校56校の協力を得て、「駿河台大学『スポーツ科学部』(仮称)設置に関するニーズ調査」を実施し、高校2年生7,261人から回答を得た。この調査は、ニッセイエブロ株式会社(東京都港区新橋5-20-4)に依頼し実施したものであり、その結果が報告書として取りまとめられている。(資料8 駿河台大学『スポーツ科学部』(仮称)設置に関する学生確保の見通し調査結果報告書)

(ア) 調査対象

調査の対象は、平成30(2018)年12月時点で高等学校2年次に在籍中の生徒を対象に実施した。調査対象者は、新設学部設置後の初めての入学者(開設予定年度の入学者)となることが想定される。調査対象の高等学校については、本学の既設学部(法学部、経済経営学部、メディア情報学部、現代文化学部、心理学部)に在籍する学生の出身高等学校のうち、高校訪問等の入試広報活動を毎年、継続的に行っている高等学校に限定して調査協力依頼を行った。

(イ) 調査方法

調査に際しては、調査票(アンケート用紙)と同時に配布したリーフレットに、本大学名と、設置構想中の学部学科の名称として「スポーツ科学部スポーツ科学科」を掲げて、養成しようとする人材像について「設置の趣旨等を記載した書類」に記した内容を明示するとともに、将来の進路として想定される具体的な人材像を例示した。さらに、新設学部のアクセス、競合する大学・学部・学科の名称、学生納付金、教育課程の特色となる点について明示している。

設問項目については、入学意向を質問する項目(Q6)において「①入学したいと思う」と「②入学したいと思わない」という選択肢によって、入学の意思を明確に確認できるようにしている。

(ウ) 調査結果

この調査の結果、スポーツ科学部を「受験したいと思う」と回答した者は801人(全体比率11.0%)であった。この受験意向を示した回答者のうち、スポーツ科学部に合格した場合に、716人(全体比率9.9%)が「入学したいと思う」と回答している。このように、入学定員200人に対して、約4倍の受験者を期待することができ、なおかつ入学意向者が入学定員の約3.6倍を超えることから、定員充足は十分に可能である。

なお、本学所在地である「埼玉県」に限定してアンケート調査の結果を分析した場合にも、スポーツ科学部への受験意向者かつ入学意向者は307人で、予定されている

入学定員 200 人の 1.5 倍程度の受験/入学意向を確認することができた。また、隣接する「東京都」においてもスポーツ科学部への入学意向者は 181 人となっており、この 2 都県で予定定員の 2.4 倍以上となる。

ウ 学生納付金の設定の考え方

本学では、中期的目標課題を定めた「駿河台大学グランドデザイン 2021」達成に向けて教育研究の質の維持・向上、教育環境の一層の充実、安定した財政基盤を確立するため、平成 31（2019）年度入学生より学費改正を行う。スポーツ科学部の学生納付金の設定は、高校生等大学進学希望者の経済状況を十分に考慮し、本学の既存学部の学生納付金を基礎として、年額で授業料 73 万 5,000 円、施設費 30 万円、設備等充実費 12 万 5,000 円とした。これに入学年度のみ、入学金 20 万円を加え、初年度納付金額 136 万円とした。

近隣他大学のスポーツに関連した学部の初年度納付金額は、東京国際大学人間社会学部スポーツ科学科 156 万円、大東文化大学スポーツ・健康科学部スポーツ科学科 138 万 1,000 円、国士舘大学体育学部体育学科 156 万 8,480 円、流通経済大学スポーツ健康科学部スポーツ健康科学科 142 万 6,300 円、平成国際大学スポーツ健康学部スポーツ健康科学科 138 万円などとなっている（日本私立大学団体連合会「学生納付金等調査（平成 30 年度入学生）」による）。本学部の金額は、いずれの大学をも下回り、受験生に配慮した設定となっている。

なお、本学は、飯能キャンパスに全ての学部が集い、ほとんどの施設を全学部で共用しており、学部の入学金、授業料及び施設費を同一に設定し、学部独自に必要な設備等に係る費用について設備等充実費の費目で徴収する仕組みを採っている。スポーツ科学部では、実習等の専用教室設備を始めとする学部独自経費として上述のとおり設備等充実費 12 万 5,000 円を計上している。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

ア 高校訪問・高校での進路ガイダンス

本学の在籍学生の出身高校は、東日本地区出身者の割合が高く、所在する埼玉県下及び東京都内で全体の半数を占める。**（資料 9 本学の入学者の出身高校所在地）**

学生募集を目的とした高校への個別的なアプローチについては、埼玉県内及び東京都内を最重点エリア、北関東地区・甲信越地区・福島県を重点エリアに定め、在籍者のいる東日本地区及び北陸地区の指定校制推薦対象校を中心に入試広報部員が担当制を敷いて高校訪問を行っている。

高校訪問に際しては、本学の概要、学部説明、入試制度の概要等のほか、出身学生の在籍状況をできる限り詳しく提供し、そのことにより本学の教育内容を説明するようにしている。さらには、高校現場での動向を直接聴取し、本学の教育改革に反映すべく、情報収集も行っている。

なお、先述した「駿河台大学『スポーツ科学部』（仮称）設置に関するニーズ調査」の

結果について、協力していただいた各高等学校に対して平成 31 (2019) 年 3 月から順次報告を行い、スポーツ科学部 (仮称) の教育研究内容の理解を求め、学生確保につながるように努めている。

また、高校の現場で行っている進路ガイダンス及び出張講義においては、例年 10,000 人 (平成 29 (2017) 年度実績 : 進路ガイダンス 442 校 6,352 人、出張講義 102 校 2,455 人) 近くの高校生に直接話をしている。さらには、高校単位の見学会 (平成 29 (2017) 年度実績 : 32 校 1,088 人) についても、積極的に受け入れており、本学キャンパスにおいて高校生のみならず、ご父母や高校教員をもその対象として、模擬授業や施設見学、学食体験の機会を提供している。(資料 10 進路ガイダンス・出張講義・見学会実績)

イ オープンキャンパス

オープンキャンパスは、本学の学生募集活動の主体であり、本学が最も力を傾注しているところである。

実施に当たっては、過年度における参加者アンケートを重視し、高校生が進路選択を検討する上で特に重視する点に着目し、模擬授業、入試制度説明、学生生活の案内、施設見学等に力を入れ、教員、職員、学生スタッフが、参加者「ひとりひとり」と個別に対応する体制を実践している。平成 30 (2018) 年度に前年度と同回数実施したオープンキャンパス参加者数は、前年度比 128%となり、より多くの高校生、ご父母、高校教員に本学を理解いただき、関心を持っていただいていることが伺えた。さらに、参加者へのアンケートにおいて、オープンキャンパス全体の感想についての項目を過去 3 年分調査したところ、「とても良かった」「良かった」との回答が 3 ヶ年にわたり全体の 95% を占めており、高評価を得ている。(資料 11 オープンキャンパス動員数・参加者満足度アンケート結果)

ウ 保護者向け講座

高校生が卒業後の進路選択を考える上で、強い影響力を持つ保護者に対し、本学の教育内容や特色を伝えるために、オープンキャンパスの機会を利用して「保護者向け講座」を開催している。

オープンキャンパスで同講座を開講している理由は、高校生の保護者が気軽に参加できること、高校生対象の企画と同時進行で開講できるため、より多くの情報を提供できる利点が挙げられる。

「保護者向け講座」は、高校生の保護者に特に関心が高い、キャリア教育と就職支援に的を絞り、本学独自のプログラムである「駿大社会人基礎力」の養成を全ての授業科目の到達目標に据え、社会を意識し、学生の目を社会に向ける教育を展開している取組事例を挙げながら講座を進行している。参加者からの反応は極めて良好で、本学の特徴的な教育内容を伝えられていると考えている。

エ 広報活動

広告媒体による広報活動については、7月及び8月に実施する夏のオープンキャンパスの動員告知を中心に行っている。

出稿方針としては、「個別的アプローチ」を広報の中心に据え、本学接触者に対するダイレクトメールによる再アプローチを心掛け、「ひとりひとり」に対する丁寧な案内を行っている。

さらには、本学が所在する埼玉県南西部及び隣接する東京都西部地区を沿線とする西武線の交通広告を活用し、車内ポスター及び駅構内にポスターを掲出し、情報の案内に留まらず、大学のブランディングが伝わる情報発信を行っている。

なお、毎年度本学より発行している大学案内において、平成32(2020)年入学者向けの大学案内では、スポーツ科学部(仮称)特設ページを設けることとしている。また、進学情報誌や進学情報サイトについては、主要なメディアにはほぼ参画し出稿している。なお、スポーツ科学部(仮称)に関する紹介を行う際には、設置認可構想中又は設置認可申請中であることを明記の上、適切に行っている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

ア 教育研究上の目的

駿河台大学学則の第3条第2項第5号において、スポーツ科学部の教育研究上の目的を次のように定めている。「スポーツ科学部においては、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、スポーツ科学の理論的な知識に基づき教育研究をすることにより、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献することを目的とする。」

また、中央教育審議会答申(「新しい時代における教養教育の在り方について」(平成14(2002)年2月21日))との関連から言えば、スポーツ・体育分野の教育・研究を通じて、幅広い教養を身に付け、地域社会の諸活動の中核的な役割を担う幅広い職業人の育成が、本学部の教育研究上の目的となる。

イ 養成する人材像

スポーツ科学部では、健康で文化的な生きがいのある生活を送ることができる社会を構築するために、スポーツ科学の理論的な知識に基づき、学校、地域及びスポーツが関連する領域において、今日のスポーツの意義や価値をふまえ、健康の維持増進、生涯スポーツ時代の青少年のスポーツ教育又は地域の活性化に貢献できる人材を養成する。

具体的には、スポーツ科学の知識と技能を有した中学校・高等学校における教科とし

ての保健体育と運動部活動を担う教師及び外部指導者としてのスポーツ指導者、高齢化時代の成人を対象とする健康の維持増進に貢献するスポーツ指導者、スポーツを地域振興に活用できる政策立案者等の養成を目指す。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 企業対象のアンケート調査

本学では、新設学部の教育研究上の目的が、社会的、地域的な人材需要の動向に合致していることを検証するために、平成 30 (2018) 年 12 月に「駿河台大学『スポーツ科学部』(仮称) 設置に関するニーズ調査」において企業向けのニーズ調査を実施し、2,328 件の協力を依頼し、419 件の有効回答が得られた。本調査も、受験対象者アンケートと同様にニッセイエプロ株式会社に依頼し実施したものであり、その結果が報告書として取りまとめられている。(資料 12 駿河台大学『スポーツ科学部』(仮称) 設置に関する人材需要調査結果報告書)

(ア) 調査方法

調査は、新設学部の教育研究上の目的を踏まえて、郵送によって、企業の採用担当者に採用意向や新設学部が予定する教育の魅力度等について質問を実施した。

(イ) 調査対象

調査対象は、既にスポーツのコースを持つ既設学部の卒業生が就職した実績のある企業・団体を中心に依頼をしており、本アンケートは新設を予定するスポーツ科学部の卒業生が進路先としてターゲットとする企業を対象として調査設計を行っている。

(ウ) 調査結果

この調査において、新設学部の教育の魅力度を尋ねたところ、質問項目として掲げた 5 つの項目のいずれについても約 70%を超える高い魅力度が示されている(「とても魅力を感じる」と回答した者と「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計数で魅力度を測っている)。具体的には、(A) スポーツを専門的に教育・研究することにより培った指導力、企画運営力、問題発見・解決能力等を発揮できる人材の育成を目指している点については、「とても魅力を感じる」との回答が 43.9%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 48.7%で、両者を合わせると 92.6%が積極的な回答を示している。

(B) 自分と違った意見や考え方、目標をもった人を認め合い、支え合う力を身に付けることができる点については、「とても魅力を感じる」との回答が 67.1%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 30.5%で、両者を合わせると 97.6%が積極的な回答を示した。(C) 幅広い年齢層の人々や、競技力向上を目指すスポーツ選手に対して、その目的に応じて適切かつ効果的な実践方法を指導できる人材の育成を目指している点については、「とても魅力を感じる」との回答が 28.9%、「ある程度魅力を感じる」との回

答が 48.4%で、両者を合わせると 77.3%が積極的な回答を示した。(D) 教育現場(中学校及び高等学校)や、地域における生涯スポーツの分野で、適切な指導ができる人材の育成を目指している点については、「とても魅力を感じる」との回答が 24.6%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 45.3%で、両者を合わせると 69.9%が積極的な回答を示した。(E) スポーツの楽しさや有用性を伝えること、およびスポーツを地域の資源として捉え活用することによって、地域の活性化に貢献できる人材の育成を目指している点については、「とても魅力を感じる」との回答が 31.7%、「ある程度魅力を感じる」との回答が 48.2%で、両者を合わせると 79.9%が積極的な回答を示した。以上のように、新設学部が養成しようとする人材像に関する質問については、(C) スポーツ健康モデルで 77.3%、(D) スポーツ教育モデルで 69.9%、(E) 地域スポーツモデルで 79.9%という高い魅力度が示されていることから、新設学部が養成しようとする人材像が社会的な人材需要に合致しているものと考えられる。また、新設学部の教育の特色に関する質問(A)と(B)についても、それぞれ 92.6%と 97.6%という極めて高い魅力度が示されていることから、新設学部の教育研究上の目的は現在の社会的な人材需要の動向に合致した魅力的なものとなっている。このことは、スポーツ科学部の社会的必要性に関する別の質問(Q7)において、駿河台大学スポーツ科学部がこれからの社会にとって「必要だと思う」との回答が 91.6%(384 企業)であったことから明らかである。

また、本調査における卒業生の採用意向について、新設学部が養成しようとする人材像に関して「採用したいと思う」と「採用したいと思わない」の二択で質問をしたところ、「採用したいと思う」との回答が 90.2%(回答数 378 企業)であり、高い採用意向が示された。上記の質問にあわせて毎年の採用想定人数について尋ねたところ、毎年の採用想定人数は合計で 476 人であった。(人数未確定の企業を除き、回答のあった企業の毎年の採用想定人数の合計で計算した。)このことから入学定員 200 人に対して 2.3 倍以上の需要を期待することができる。

イ 飯能市との意見交換

本学では、新設学部の教育研究上の目的が地域的な人材需要の動向に合致していることを検証するために、平成 30(2018)年 10 月に、本学所在地の自治体である飯能市役所にて設置構想中の『スポーツ科学部』について意見交換を行った。

この意見交換では、新設学部の設置の趣旨、3 つのポリシー、カリキュラム体系の原案を説明し、忌憚のない意見交換を行った。飯能市が「スポーツによるまちづくり」を推進しており、本学による近隣の学校体育行事や課外活動のサポートに感謝していること、市では少子高齢化が進んでおり、介護予防も含めて、スポーツ活動を支援するトレーナー・インストラクターのニーズが高いことが確認された。また、市民のスポーツの場と機会の拡充に努めて欲しいとの要望があり、今後更なる連携を推進する予定である。

また、飯能市長より、「駿河台大学スポーツ科学部スポーツ科学科の設置について(嘆願)」が文部科学大臣宛に提出され、本学が所在する飯能市からの期待も高く、スポーツ

科学部は地域的な要請に合致したものである。(資料 13 飯能市長からのスポーツ科学部
スポーツ科学科設置に関する嘆願書)

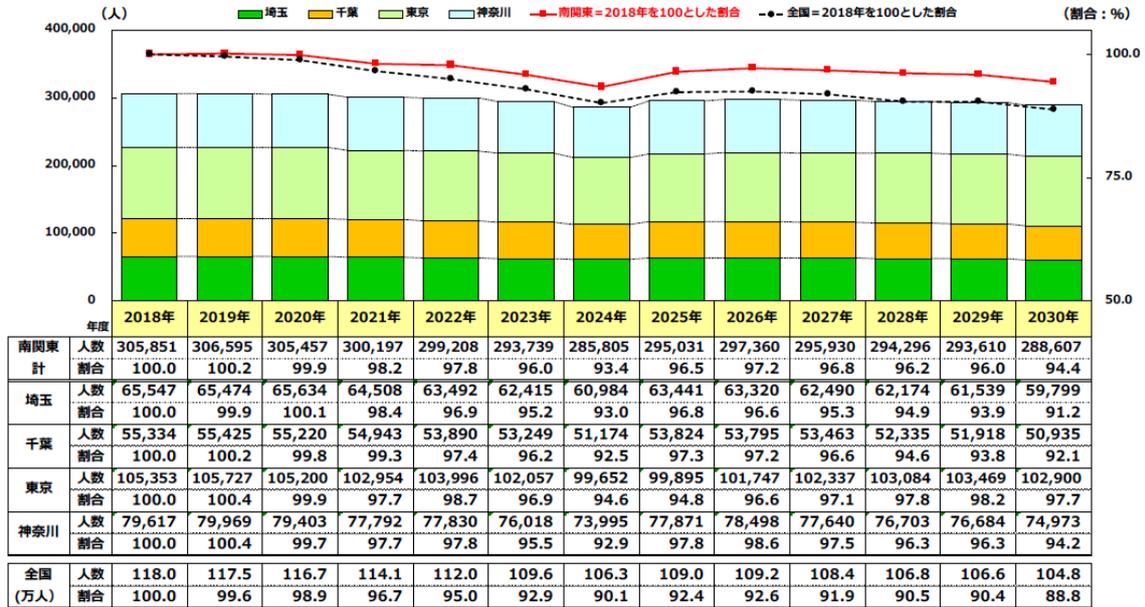
以上の結果から、本学が設置を計画しているスポーツ科学部スポーツ科学科は、社会的、地域的な人材需要の動向等を十分に踏まえたものである。

資料目次

- 資料1 18歳人口予測（全体：南関東：2018～2030）
- 資料2 高等学校（全日制・定時制）卒業後の状況調査
- 資料3 平成30（2018）年度私立大学・短期大学等入学志願動向 規模別
- 資料4 埼玉県内の学部等の名称に「体育」「スポーツ」がつく大学一覧
- 資料5 既設の学部等の定員充足状況
- 資料6 既設の学部（現代文化学部）のコース志望状況
- 資料7 既設の学部（現代文化学部）の定員充足状況
- 資料8 駿河台大学『スポーツ科学部』（仮称）設置に関する学生確保の見通し調査結果報告書
- 資料9 本学の入学者の出身高校所在地
- 資料10 進路ガイダンス・出張講義・見学会実績
- 資料11 オープンキャンパス動員数・参加者満足度アンケート結果
- 資料12 駿河台大学『スポーツ科学部』（仮称）設置に関する人材需要調査結果報告書
- 資料13 飯能市長からのスポーツ科学部スポーツ科学科設置に関する嘆願書

18歳人口予測（全体：南関東：2018～2030）

18歳人口予測（南関東：2018年～2030年）



- データ元：「H30年度（2018年度）学校基本調査 速報値」より
- 表内の「年度」に属する18歳とは、その年の3月に卒業を迎える高校3年生を指す。
- 2018年（平成30年）4月現在の高校3年生は、表内の2019年の数値

学校基本調査を基にリクルート進学総研にて作成

高等学校（全日制・定時制）卒業後の状況調査

区 分	計	大 学 等 者 (A)	うち大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く進学者	大 学 等 率 (%)	大学・短期大学の通信教育部への進学者を除く進学率 (%)
平成29年3月	1,069,568	585,184	584,785	54.7	54.7
平成30年3月	1,056,378	578,041	577,562	54.7	54.7
国 立	2,809	1,864	1,863	66.4	66.3
公 立	717,917	358,454	358,097	49.9	49.9
私 立	335,652	217,723	217,602	64.9	64.8
計 の 内 訳					
埼 玉	56,970	32,572	32,535	57.2	57.1

平成30（2018）年度学校基本調査より抜粋

平成30(2018)年度私立大学・短期大学等入学志願動向 規模別

全国の大学を1校当たり入学定員により区分した。

1校当たり 入学定員の区分	年度	集計 学校数	入学定員 A	志願者 B	受験者 C	合格者 D	入学者 E	志願倍率 B/A	合格率 D/C	歩留率 E/D	入学定員 充足率 E/A
		校	人	人	人	人	人	倍	%	%	%
100人未満	29	33	2,410	5,859	5,704	3,516	2,276	2.43	61.64	64.73	94.44
	30	34	2,488	5,296	5,159	3,640	2,304	2.13	70.56	63.30	92.60
	増減	1	78	△ 563	△ 545	124	28	△ 0.30	8.92	△ 1.43	△ 1.84
100人以上 200人未満	29	103	14,601	60,673	57,337	23,248	13,686	4.16	40.55	58.87	93.73
	30	101	14,207	59,641	56,402	23,210	13,612	4.20	41.15	58.65	95.81
	増減	△ 2	△ 394	△ 1,032	△ 935	△ 38	△ 74	0.04	0.60	△ 0.22	2.08
200人以上 300人未満	29	88	21,074	74,846	71,770	34,811	20,217	3.55	48.50	58.08	95.93
	30	89	21,350	82,910	79,299	37,570	21,213	3.88	47.38	56.46	99.36
	増減	1	276	8,064	7,529	2,759	996	0.33	△ 1.12	△ 1.62	3.43
300人以上 400人未満	29	65	22,408	77,715	74,369	39,300	21,634	3.47	52.84	55.05	96.55
	30	69	23,894	81,276	78,122	42,663	23,474	3.40	54.61	55.02	98.24
	増減	4	1,486	3,561	3,753	3,363	1,840	△ 0.07	1.77	△ 0.03	1.69
400人以上 500人未満	29	44	19,525	67,283	65,371	34,448	19,406	3.45	52.70	56.33	99.39
	30	37	16,332	64,090	62,194	29,901	16,465	3.92	48.08	55.07	100.81
	増減	△ 7	△ 3,193	△ 3,193	△ 3,177	△ 4,547	△ 2,941	0.47	△ 4.62	△ 1.26	1.42
500人以上 600人未満	29	44	23,631	80,395	77,550	46,765	23,837	3.40	60.30	50.97	100.87
	30	45	24,221	85,674	82,875	47,458	25,113	3.54	57.26	52.92	103.68
	増減	1	590	5,279	5,325	693	1,276	0.14	△ 3.04	1.95	2.81
600人以上 800人未満	29	43	29,236	113,651	110,723	59,872	30,230	3.89	54.07	50.49	103.40
	30	45	30,832	132,347	128,265	64,524	31,953	4.29	50.31	49.52	103.64
	増減	2	1,596	18,696	17,542	4,652	1,723	0.40	△ 3.76	△ 0.97	0.24
800人以上 1000人未満	29	32	28,918	159,059	154,460	69,657	30,996	5.50	45.10	44.50	107.19
	30	32	29,163	181,673	175,991	71,919	31,910	6.23	40.87	44.37	109.42
	増減	0	245	22,614	21,531	2,262	914	0.73	△ 4.23	△ 0.13	2.23
1000人以上 1500人未満	29	51	63,789	382,574	371,324	154,805	67,396	6.00	41.69	43.54	105.65
	30	50	62,608	395,774	384,191	149,509	65,304	6.32	38.92	43.68	104.31
	増減	△ 1	△ 1,181	13,200	12,867	△ 5,296	△ 2,092	0.32	△ 2.77	0.14	△ 1.34
1500人以上 3000人未満	29	54	109,691	1,043,305	1,011,203	324,811	119,018	9.51	32.12	36.64	108.50
	30	56	114,982	1,135,289	1,100,139	322,125	120,685	9.87	29.28	37.47	104.96
	増減	2	5,291	91,984	88,936	△ 2,686	1,667	0.36	△ 2.84	0.83	△ 3.54
3000人以上	29	24	142,379	1,817,212	1,732,416	447,326	150,981	12.76	25.82	33.75	106.04
	30	24	144,909	1,934,525	1,846,895	418,980	145,740	13.35	22.69	34.78	100.57
	増減	0	2,530	117,313	114,479	△ 28,346	△ 5,241	0.59	△ 3.13	1.03	△ 5.47
合計	29	581	477,662	3,882,572	3,732,227	1,238,559	499,677	8.13	33.19	40.34	104.61
	30	582	484,986	4,158,495	3,999,532	1,211,499	497,773	8.57	30.29	41.09	102.64
	増減	1	7,324	275,923	267,305	△ 27,060	△ 1,904	0.44	△ 2.90	0.75	△ 1.97

※日本私立学校振興・共済事業団「平成30(2018)年度私立大学・短期大学等入学志願動向」より

埼玉県内の学部等の名称に「体育」「スポーツ」がつく大学一覧

大学名	学部名 学科名	入学年度	入学定員	入学者数	志願者数	入試倍率
立教大学	コミュニティ福祉学部	2017年度	110	117	1,542	14.0
	スポーツウエルネス学科	2018年度	110	107	1,672	15.2
平成国際大学	スポーツ健康学部	2017年度	100	100	189	1.9
	スポーツ健康学科	2018年度	100	121	224	2.2
早稲田大学	スポーツ科学部	2017年度	400	419	4,055	10.1
	スポーツ科学科	2018年度	400	404	4,293	10.7
東洋大学	ライフデザイン学部	2017年度	180	190	2,453	13.6
	健康スポーツ学科	2018年度	180	175	2,574	14.3
大東文化大学	スポーツ・健康科学部	2017年度	125	134	1,724	13.8
	スポーツ科学科	2018年度	125	122	1,580	12.6
東京国際大学	人間社会学部	2017年度	230	252	非公開	—
	人間スポーツ学科	2018年度	230	249	非公開	—
	人間社会学部	2017年度	200	224	非公開	—
	スポーツ科学科	2018年度	200	204	非公開	—
合計		2017年度	1,345	1,436	9,963	10.7
		2018年度	1,345	1,382	10,343	11.0

※平成29（2017）、平成30（2018）年度の入学定員と入学者数

出典：リクルート進学総研

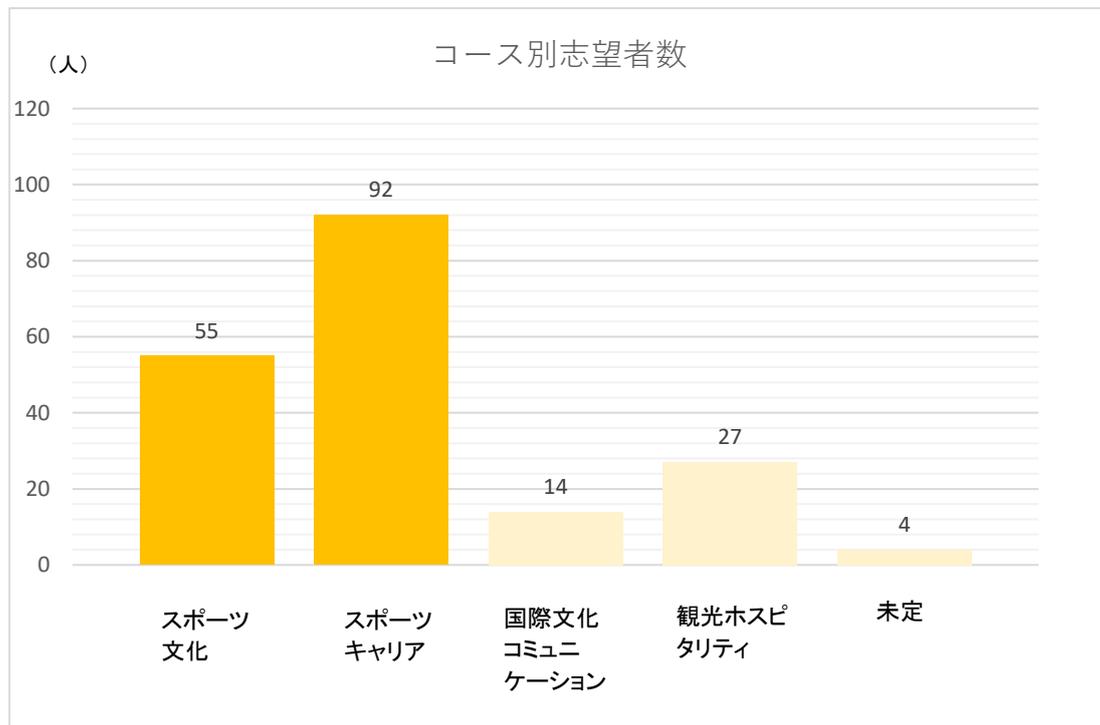
既設の学部等の定員充足状況

学部	摘要	2014	2015	2016	2017	2018
		H26	H27	H28	H29	H30
法	入学定員	260	240	240	230	220
	志願者数	352	358	333	353	575
	入学者数	210	211	192	198	271
	定員超過率	0.81	0.88	0.80	0.86	1.23
経済経営	入学定員	240	230	230	200	210
	志願者数	317	308	300	447	705
	入学者数	184	175	159	250	262
	定員超過率	0.77	0.76	0.69	1.25	1.25
メディア情報	入学定員	160	160	160	150	140
	志願者数	234	239	212	257	415
	入学者数	143	133	96	129	173
	定員超過率	0.89	0.83	0.60	0.86	1.24
現代文化	入学定員	130	150	150	180	200
	志願者数	298	259	306	341	450
	入学者数	166	165	205	206	194
	定員超過率	1.28	1.10	1.37	1.14	0.97
心理	入学定員	130	140	140	140	140
	志願者数	344	308	313	372	628
	入学者数	151	138	137	165	182
	定員超過率	1.16	0.99	0.98	1.18	1.30
計	入学定員	920	920	920	900	910
	志願者数	1,545	1,472	1,464	1,770	2,773
	入学者数	854	822	789	948	1,082
	定員超過率	0.93	0.89	0.86	1.05	1.19

既設の学部（現代文化学部）のコース志望状況

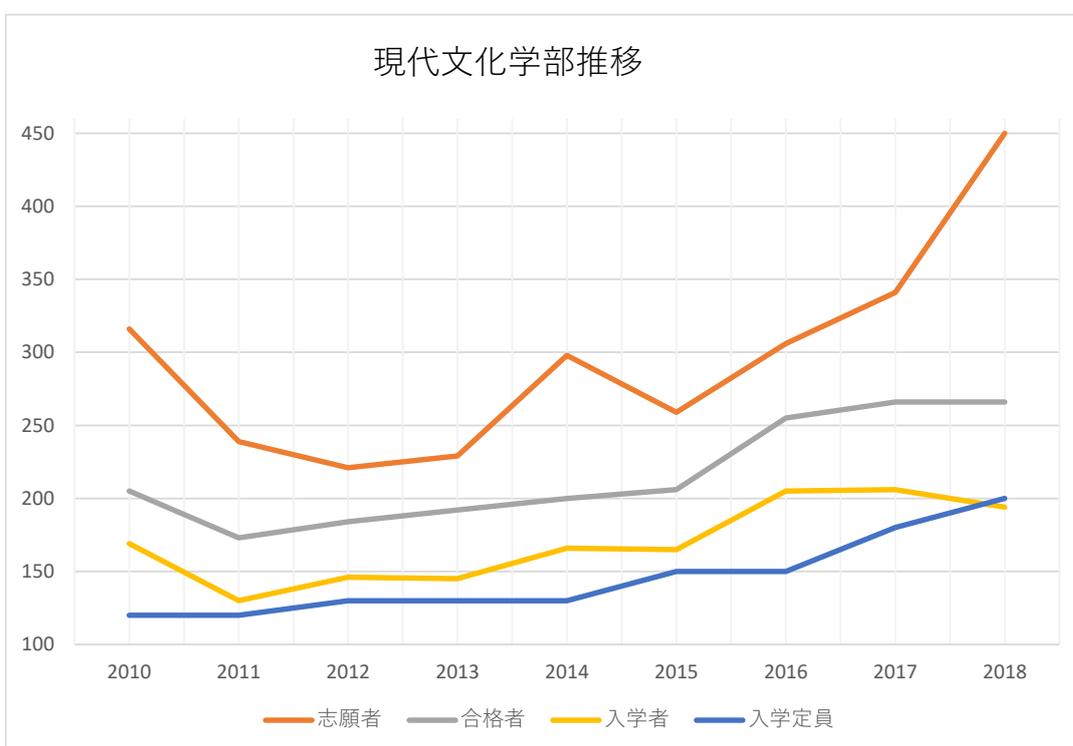
選択コース	男性	女性	総計	
	人数	人数	人数	割合
スポーツ文化コース	37	18	55	28.6%
スポーツキャリアコース	86	6	92	47.9%
国際文化コミュニケーションコース	10	4	14	7.3%
観光ホスピタリティコース	13	14	27	14.1%
未定	4	0	4	2.1%
総計	150	42	192	100.0%

※2018年度1年次生の志望状況（2019/2/9現在）



既設の学部（現代文化学部）の定員充足状況

年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
志願者	316	239	221	229	298	259	306	341	450
合格者	205	173	184	192	200	206	255	266	266
入学者	169	130	146	145	166	165	205	206	194
入学定員	120	120	130	130	130	150	150	180	200
定員超過率	1.40	1.08	1.12	1.11	1.27	1.10	1.36	1.14	0.97



高校生

駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称)
設置に関するニーズ調査 結果報告書

平成31年2月

ニッセイエプロ株式会社

I .調查結果

1.高校生対象 調査概要

(1)調査目的

2020年4月開設予定の「駿河台大学スポーツ科学部」新設構想に関して、高校生のニーズを把握する。

(2)調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校2年生
調査エリア		宮城県、福島県、群馬県、栃木県、茨城県、 埼玉県、東京都、新潟県、長野県、富山県
調査方法		高校留め置き調査
調査対象数	依頼数	9,822 (56校)
	回収数 (回収率)	7,261 (50校) (73.9%)
調査時期		2018年12月7日～2019年1月23日
調査実施機関		ニッセイエプロ株式会社

(3)調査項目

高校生対象調査
①属性（性別／所属クラス／経験のある運動部・スポーツクラブ）
②高校卒業後の希望進路
③興味のある学問系統
④駿河台大学の認知
⑤スポーツ科学部の特色に対する魅力度
⑥スポーツ科学部の受験意向
⑦スポーツ科学部への入学意向

(4)高校生調査対象（回収高校）

高校生調査対象	
埼玉栄高等学校	松本国際高等学校
埼玉県立桶川高等学校	新島学園高等学校
埼玉県立桶川西高等学校	水戸啓明高等学校
埼玉県立滑川総合高等学校	正則学園高等学校
埼玉県立狭山清陵高等学校	正智深谷高等学校
埼玉県立鴻巣高等学校	青藍泰斗高等学校
埼玉県立坂戸西高等学校	学校法人石川高等学校
埼玉県立児玉高等学校	川口市立高等学校
埼玉県立進修館高等学校	大成高等学校
埼玉県立川口青陵高等学校	東海大学菅生高校
埼玉県立大宮東高等学校	東京都立光丘高校
埼玉県立大宮南高等学校	東京都立砂川高等学校
埼玉県立飯能高校	東北高等学校
埼玉県立飯能南高校	栃木県立小山南高等学校
埼玉県立北本高等学校	二松學舎大学附属高等学校
埼玉平成高等学校	東京都立拝島高等学校
つくば秀英高等学校	富山第一高等学校
茨城県立岩瀬高等学校	武蔵越生高等学校
茨城県立那珂高等学校	福島県立ふたば未来学園高等学校
加茂暁星高校	保善高等学校
霞ヶ浦高等学校	堀越高等学校
群馬県立吉井高等学校	本庄第一高校
国際学院高等学校	明成高等学校
作新学院高等学校	八王子実践高等学校
山村学園高等学校	
山村国際高等学校	

2.高校生対象 調査結果のまとめ

(1)回答者の属性

- ・ 本調査の回答者数は7,261人で、性別は「男性」が56.7%、「女性」が42.5%で男性の割合が高い。
- ・ 回答者の在籍高校所在地は、地元「埼玉県」が45.4%で最も高く、次いで「東京都」が24.6%が続いている。これ以降はいずれも10%未満となっている。
- ・ 回答者の所属クラスは、「文系クラス(文系コース)」が41.0%で最も高く、「コース選択はない」が25.6%、「理系クラス(理系コース)」が14.1%、「スポーツ系クラス(スポーツ系コース)」が11.9%となっている。
- ・ 経験したことのある運動部やスポーツクラブは「水泳」が27.3%、「サッカー・フットサル」が23.8%、「テニス」が16.7%の順となっている。

(2)高校卒業後の希望進路

- ・ 高校卒業後の希望進路(複数回答)は「私立大学に進学」が49.2%で最も高く、次いで「専門学校・専修学校に進学」が35.6%、「就職」が19.3%となっている。

(3)興味のある学問系統

- ・ 高校卒業後に進学した場合に、勉強したい分野は「体育・スポーツ・健康」が25.4%で最も高く、次いで「経済・経営・ビジネス」が19.7%、「看護・福祉」が12.4%、「教員養成」が10.0%となっている。

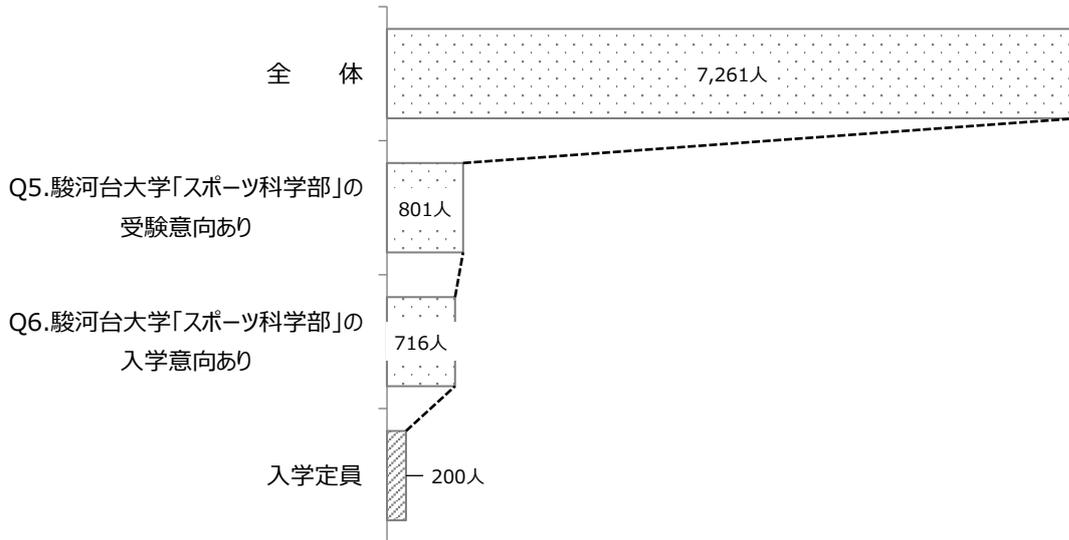
(4)スポーツ科学部の特色に対する魅力度

- ・ スポーツ科学部の特色に対する魅力度(「とても魅力を感じる」+「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計割合)は、全ての特色で7割を超える。
- ・ 魅力度が高いのは「各種スポーツ施設や、スポーツを心技体の面から学ぶ実験・実習施設が整備されている」が79.2%で最も高く、次いで「チームで課題を克服する授業を通じて、自分と違った意見や考え方、目標をもった人を認め合い、支え合う力を身に付けることができる」の78.5%となっている。

(5)スポーツ科学部の受験・入学意向

- ・ 「スポーツ科学部」が設置された場合に、受験意向があるのは 11.0% (801 人)となっている。
- ・ 受験意向のある回答者のうち、「スポーツ科学部」に合格した場合に、入学意向があるのは 9.9% (716 人)となっており、入学定員を大きく上回っている。

図表 1: スポーツ科学部の受験・入学意向



(6)受験/入学意向者¹の属性別傾向

- ・ 性別では、スポーツ科学部に合格した場合、「入学したいと思う」と回答したのは「男性」が 13.0%、「女性」が 5.7%で男性が女性の 2 倍あまりとなっている。
- ・ 高校所在地別でみると、本学の所在地である「埼玉県」の高校在籍者のうち、スポーツ科学部への入学意向者は 9.3% (306 人)で、予定されている入学定員 200 人の 1.5 倍程度の受験/入学意向がみられた。また隣接する「東京都」においてもスポーツ科学部への入学意向者は 10.1% (181 人)と、定員の 9 割程度となっており、この 2 都県で予定定員の 2.4 倍以上となっている。
- ・ 希望する進路別でみると、現時点で「私立大学に進学」を考えている回答者のうち、スポーツ科学部への入学意向者は 12.1% (433 人)と、私立大学進学希望者に限定しても予定されている入学定員数を大きく上回る入学意向がみられた。
- ・ 興味のある学問系統別では、卒業後に勉強したい分野として「体育・スポーツ、健康」を挙げている回答者のうち、スポーツ科学部への入学意向者は 27.2% (501 人)と、高い入学意向がみられた。

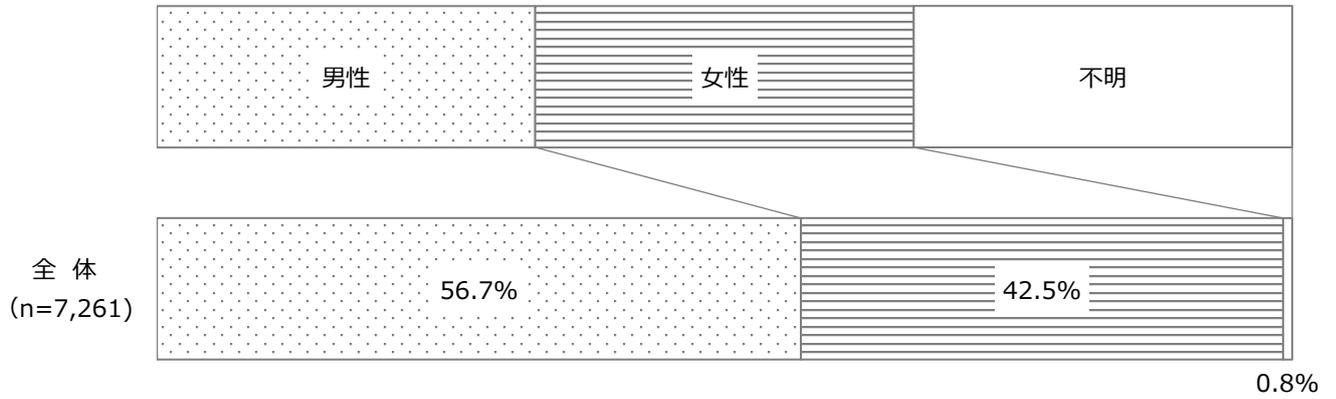
¹ 駿河台大学「スポーツ科学部」を「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した対象者

Ⅱ.調査結果の詳細

1.属性

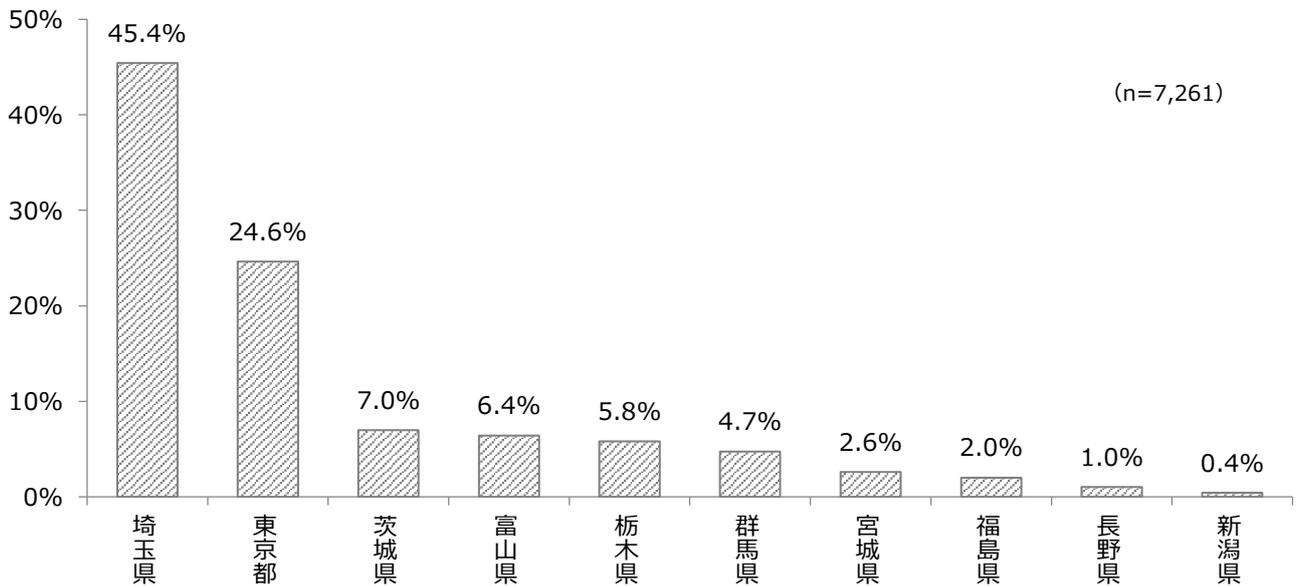
(1)性別

図表 2: 性別(1つマークしてください)



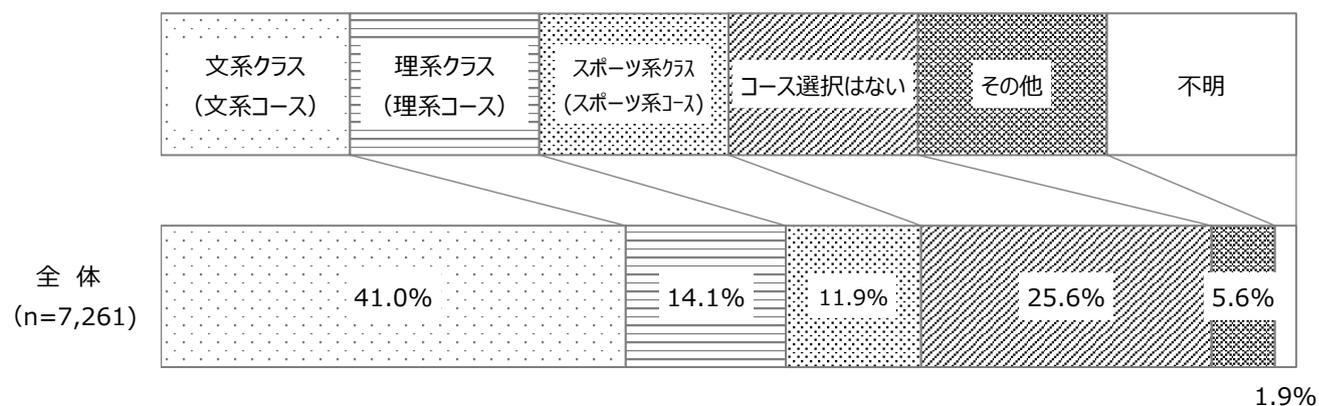
(2)高校所在地

図表 3: 高校所在地



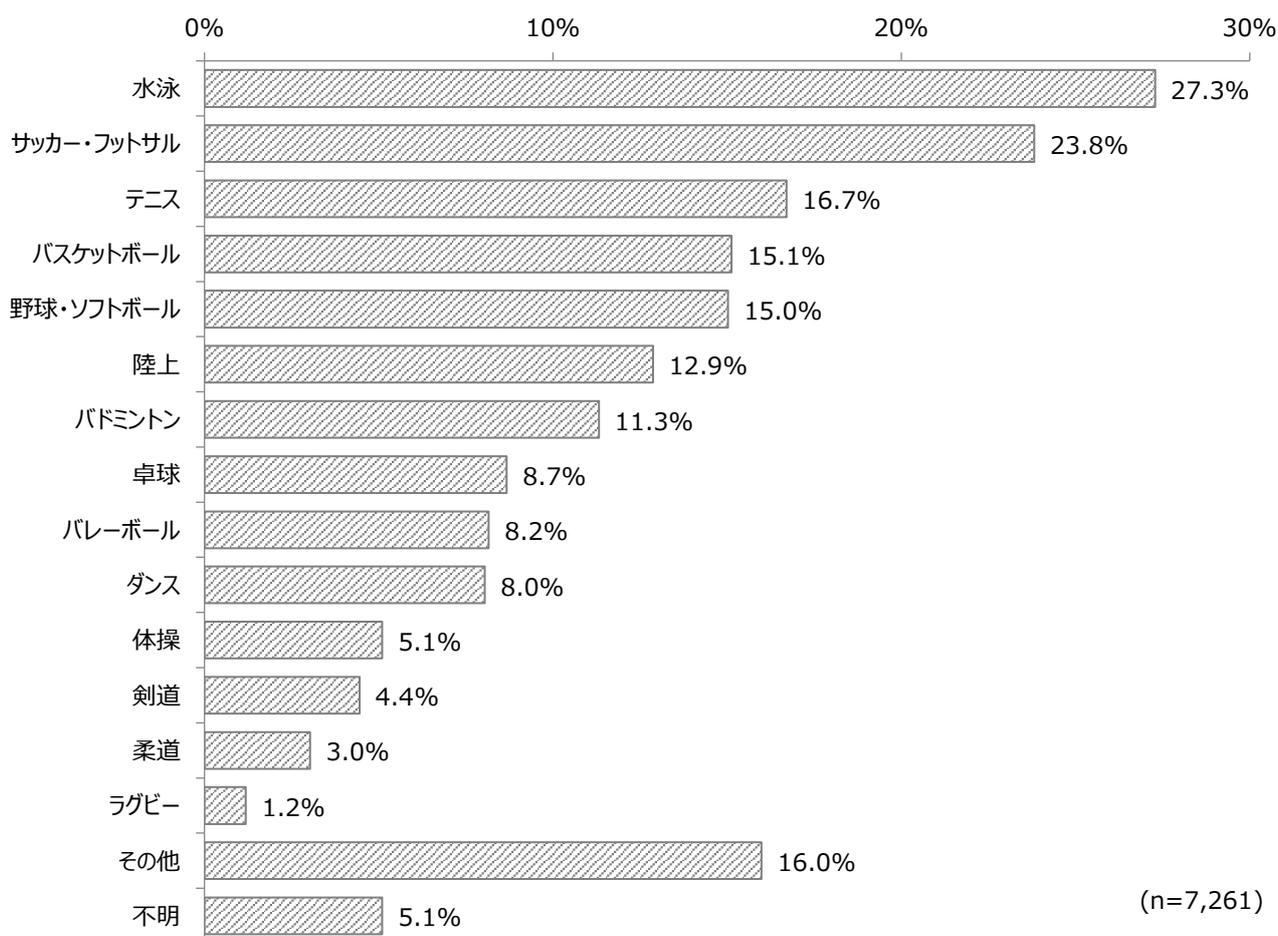
(3)所属クラス

図表 4: 所属クラス(1つマークしてください)



(3)経験したことのある運動部やスポーツクラブ

図表 5: 今まで経験(所属)したことのある運動部やスポーツクラブ(あてはまる番号をすべてマークしてください)



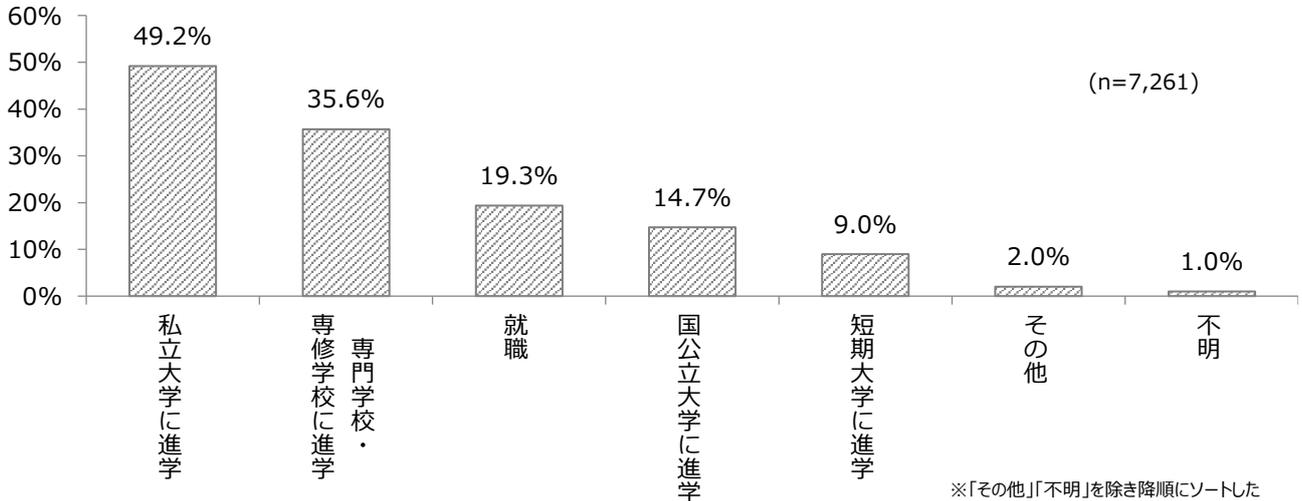
※「その他」「不明」を除き降順にソートした

2.高校卒業後の希望進路について

(1)高校卒業後の希望進路

図表 6: Q1.あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。

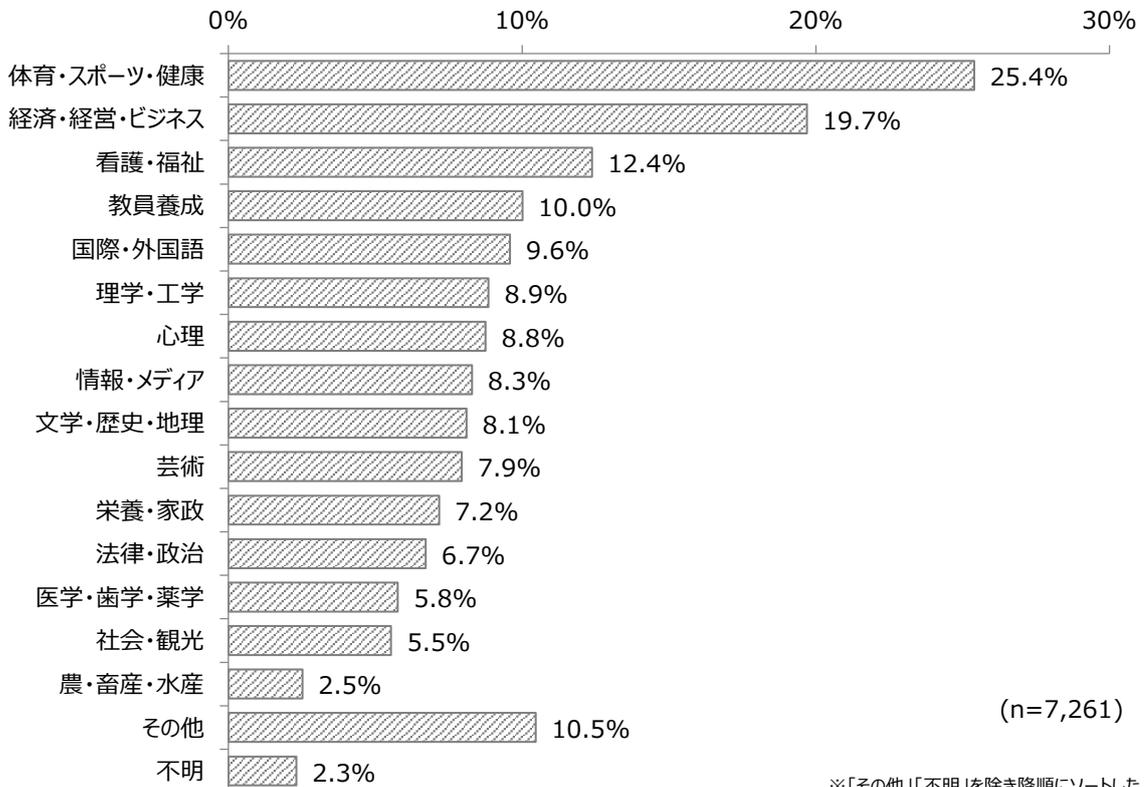
以下の項目からあてはまる番号すべてをマークしてください。(いくつでも)



(2)興味のある学問系統

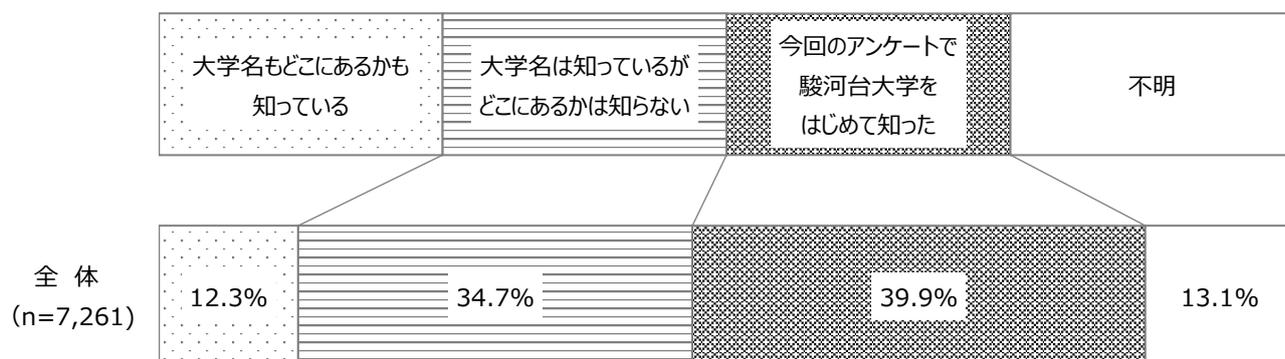
図表 7: Q2.あなたが進学した場合に勉強したい分野について教えてください。

以下の項目から、あてはまる番号すべてをマークしてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



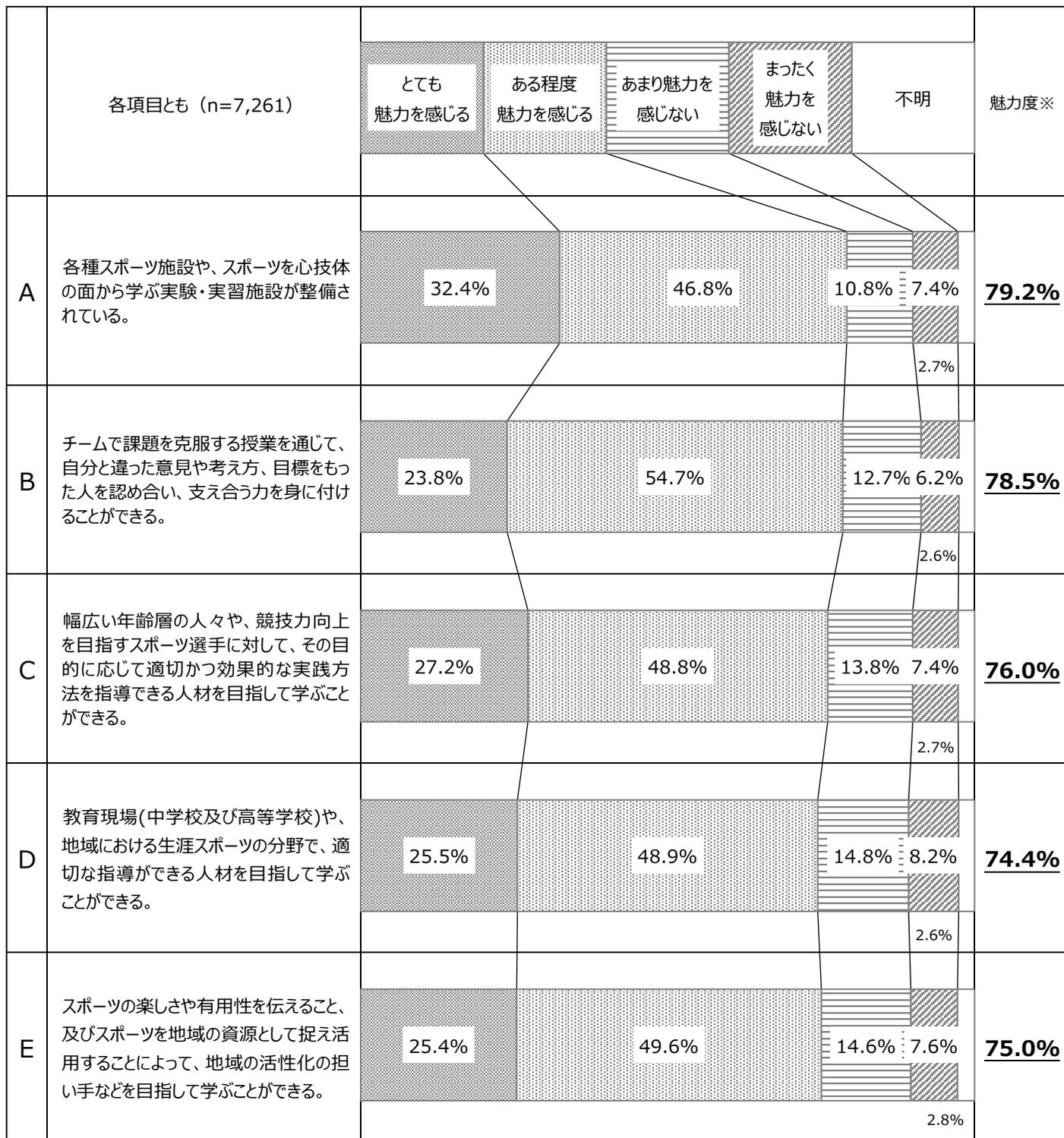
(3)駿河台大学の認知

図表 8: Q3.あなたは駿河台大学についてどの程度知っていましたか。あてはまる番号 1 つをマークしてください。



3.スポーツ科学部の特色についての魅力度

図表 9: Q4.駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)には、以下の A~E のような特色があります。
 それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。
 (それぞれ、あてはまる番号1つをマークしてください)

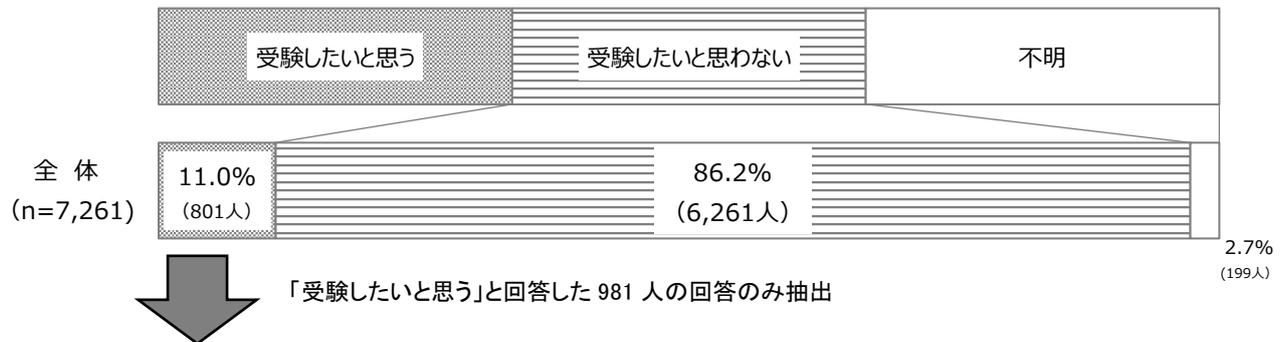


※魅力度は「とても魅力を感じる」+「ある程度魅力を感じる」の合計割合(%)

4.スポーツ科学部卒業生の受験意向／入学意向

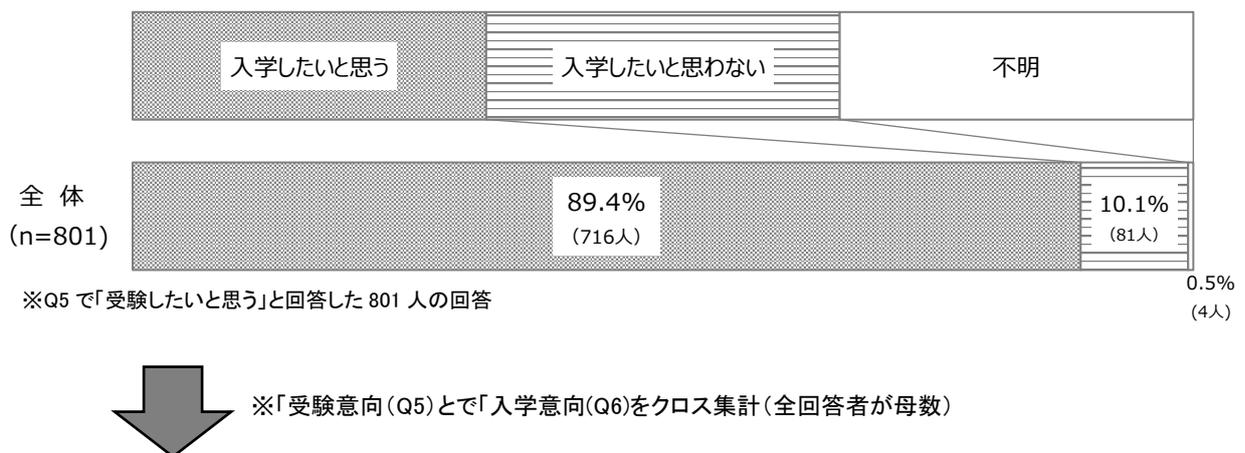
(1)駿河台大学「スポーツ科学部」の受験意向

図表 10: Q5 あなたは、駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。あてはまる番号1つをマークしてください。



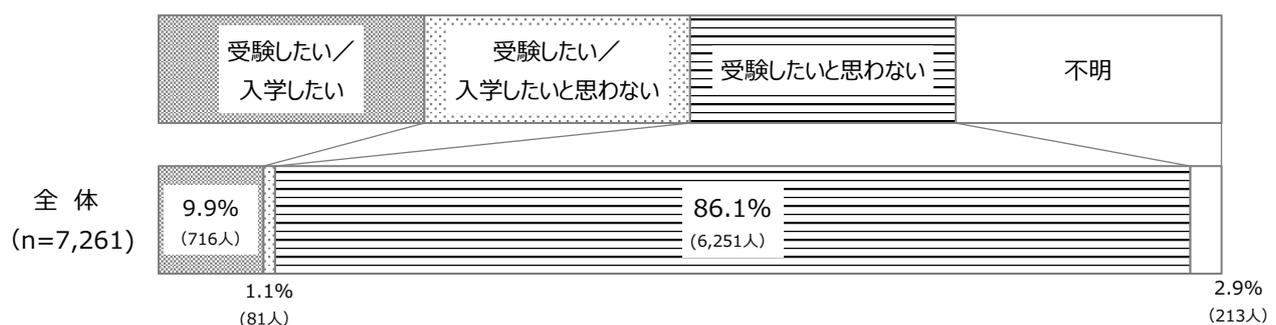
(2) 駿河台大学「スポーツ科学部」への入学意向

図表 11: Q6 あなたは、駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)に合格したら、入学したいと思いますか。あてはまる番号1つをマークしてください。



<入学意向のまとめ【全体】>

駿河台大学「スポーツ科学部」への受験意向別入学意向



< 受験/入学意向者の属性別傾向 >

		単位：%	受験したい/入学したい	受験したい/入学したいと思わない	受験したと思わない	不明
全 体		(n=7,261)	9.9	1.1	86.1	2.9
性別	男性	(n=4,119)	13.0	1.3	82.5	3.1
	女性	(n=3,084)	5.7	0.8	91.0	2.5
高校所在地別	埼玉県	(n=3,298)	9.3	1.2	86.7	2.9
	東京都	(n=1,789)	10.1	0.8	85.5	3.6
	群馬県	(n=343)	7.6	1.5	89.5	1.5
	宮城県	(n=189)	9.0	1.6	87.3	2.1
	富山県	(n=466)	8.4	1.5	87.8	2.4
	茨城県	(n=506)	13.8	1.2	81.6	3.4
	新潟県	(n=30)	16.7	0.0	76.7	6.7
	長野県	(n=75)	12.0	1.3	84.0	2.7
	福島県	(n=142)	8.5	0.0	90.1	1.4
	栃木県	(n=423)	12.1	1.2	83.9	2.8
希望進路別	国公立大学に進学	(n=1,067)	11.4	1.2	83.7	3.7
	私立大学に進学	(n=3,573)	12.1	1.2	84.3	2.4
	短期大学に進学	(n=650)	6.5	1.1	89.2	3.2
	専門学校・専修学校に進学	(n=2,588)	8.6	1.0	87.8	2.7
	就職	(n=1,405)	11.5	1.4	83.9	3.3
興味のある学問系統別	体育・スポーツ・健康	(n=1,844)	27.2	2.3	68.0	2.6
	教員養成	(n=727)	16.6	1.2	79.0	3.2
	法律・政治	(n=488)	9.0	1.4	87.3	2.3
	経済・経営・ビジネス	(n=1,430)	9.4	1.3	86.6	2.6
	国際・外国語	(n=696)	8.6	1.1	87.5	2.7
	社会・観光	(n=402)	6.2	0.7	90.8	2.2
	情報・メディア	(n=602)	7.5	0.7	89.0	2.8
	心理	(n=636)	7.4	1.3	89.2	2.2
	文学・歴史・地理	(n=589)	7.5	0.7	89.3	2.5
	栄養・家政	(n=521)	8.3	1.5	87.7	2.5
	芸術	(n=577)	4.7	0.5	91.3	3.5
	医学・歯学・薬学	(n=419)	7.2	1.9	88.5	2.4
	看護・福祉	(n=899)	8.6	1.3	87.4	2.7
	理学・工学	(n=643)	6.4	1.4	90.2	2.0
	農・畜産・水産	(n=183)	12.6	1.6	84.2	1.6
	その他	(n=760)	3.3	0.5	92.1	4.1

III. 參考資料

◆ ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください。

Q3 あなたは駿河台大学についてどの程度知っていましたか。あてはまる番号1つをマークしてください。

- ① 大学名も大学がどこにあるかも知っている ② 大学名は知っているがどこにあるかは知らない
 ③ 今回のアンケートで駿河台大学をはじめて知った

Q4 駿河台大学「スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）には、以下のA～Eのような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。（それぞれ、あてはまる番号1つをマークしてください）

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例 ○○である		→ ①	●	③	④
A	各種スポーツ施設や、スポーツを心技体の面から学ぶ実験・実習施設が整備されている。	→ ①	②	③	④
B	チームで課題を克服する授業を通じて、自分と違った意見や考え方、目標をもった人を認め合い、支え合う力を身に付けることができる。	→ ①	②	③	④
C	幅広い年齢層の人々や、競技力向上を目指すスポーツ選手に対して、その目的に応じて適切かつ効果的な実践方法を指導できる人材を目指して学ぶことができる。	→ ①	②	③	④
D	教育現場（中学校及び高等学校）や、地域における生涯スポーツの分野で、適切な指導ができる人材を目指して学ぶことができる。	→ ①	②	③	④
E	スポーツの楽しさや有用性を伝えること、及びスポーツを地域の資源として捉え活用することによって、地域の活性化の担い手などを狙って学ぶことができる。	→ ①	②	③	④

Q5 あなたは、駿河台大学「スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）を受験してみたいと思いますか。あてはまる番号1つをマークしてください。

- ① 受験したいと思う ② 受験したいと思わない

Q6 あなたは、駿河台大学「スポーツ科学部」（仮称、設置構想中）に合格したら、入学したいと思いますか。あてはまる番号1つをマークしてください。

- ① 入学したいと思う ② 入学したいと思わない

*** 質問は以上です。ご協力ありがとうございました。***

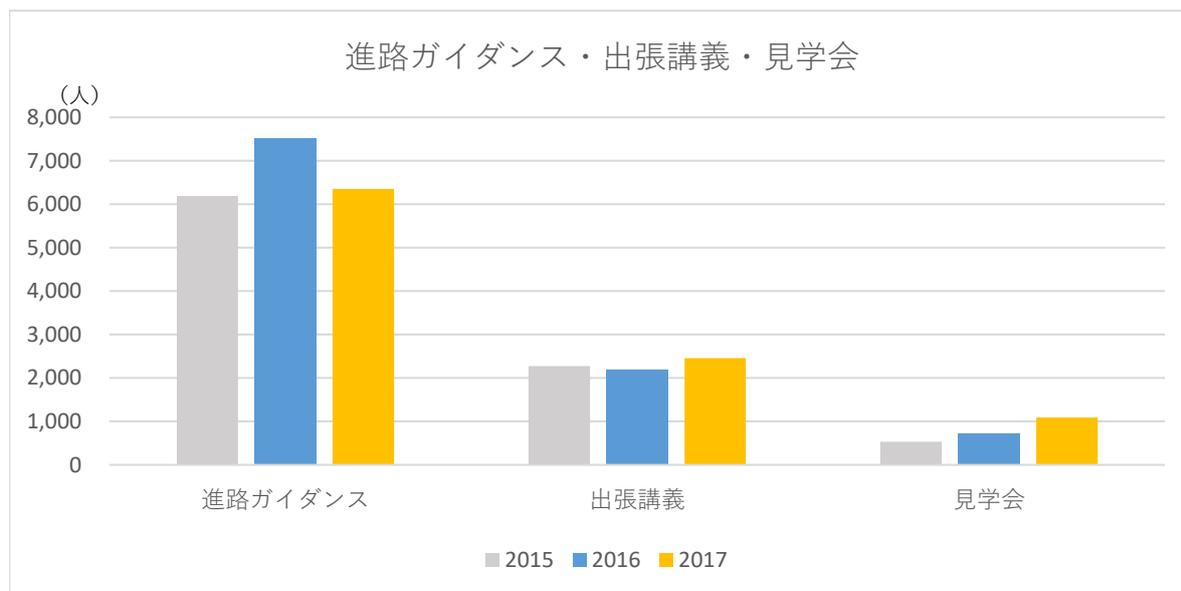
入学者の出身高校所在地

C D	地方	都道府県	2016 (H28)			2017 (H29)			2018 (H30)		
			志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者	志願者	合格者	入学者
01	北海道	北海道	15	14	11	49	28	19	20	7	6
02	東北	青森県	16	16	9	7	7	6	17	13	10
03		岩手県	10	10	8	10	9	7	8	6	4
04		宮城県	10	9	6	9	8	5	18	13	9
05		秋田県	4	4	4	9	9	3	23	13	10
06		山形県	20	19	11	11	10	5	7	6	3
07		福島県	39	35	22	43	41	25	50	34	24
		小計	99	93	60	89	84	51	123	85	60
08	関東	茨城県	45	41	25	70	46	30	110	53	29
09		栃木県	52	46	28	49	44	28	74	52	38
10		群馬県	68	62	32	89	78	52	142	94	49
11		埼玉県	485	422	258	486	422	266	747	465	307
12		千葉県	41	38	28	30	29	23	48	25	18
13		東京都	344	306	182	427	358	233	686	387	266
14		神奈川県	18	17	10	18	17	11	50	30	18
		小計	1,053	932	563	1,169	994	643	1,857	1,106	725
15	中部	新潟県	89	80	31	104	84	41	139	86	59
16		富山県	9	9	7	9	8	4	19	13	7
17		石川県	5	5	2	4	4	2	4	1	1
18		福井県				5	5	3	2	2	2
19		山梨県	22	22	15	50	43	20	58	41	28
20		長野県	37	31	25	77	57	40	96	64	44
21		岐阜県	1	1	1	2	2	2	6	4	4
22		静岡県	16	15	8	24	24	17	46	34	17
23	愛知県	2	2	2	10	7	5	16	9	5	
		小計	181	165	91	285	234	134	386	254	167
24	近畿	三重県									
25		滋賀県	2	2	2						
26		京都府	2	2	2	2	2	2	7	5	5
27		大阪府	1	1	1	1	1	1	5	5	5
28		兵庫県				1	1	1	4	2	2
29		奈良県	2	2	1	1	1	1	3	3	2
30	和歌山県	1	1	1	2	2	2	1	1	1	
		小計	8	8	7	7	7	7	20	16	15
31	中国	鳥取県	5	5	1	1	1	1	2	2	2
32		島根県				2	2		6	2	1
33		岡山県	1	1	1	1	1	1	3	2	2
34		広島県	5	5	3	3	2	1	7	5	3
35		山口県				1	1	1			
		小計	11	11	5	8	7	4	18	11	8
36	四国	徳島県									
37		香川県	1	1					6	2	
38		愛媛県	2	2		6	4	3	2	2	2
39		高知県				1	1	1	1	1	
		小計	3	3		7	5	4	9	5	2
40	九州	福岡県	7	7	4	3	3	3	4	3	3
41		佐賀県									
42		長崎県	3	3	3				5	1	1
43		熊本県	3	3	3	1	1	1	2	2	2
44		大分県				3	3	2			
45		宮崎県	1	1	1	1	1	1	3	3	2
46		鹿児島県	2	2	1	9	4	4	8	4	4
47	沖縄県	16	14	14	18	17	13	40	24	17	
		小計	32	30	26	35	29	24	62	37	29
	その他	認定	26	21	6	13	8	4	29	16	5
		その他	36	27	21	108	66	58	249	74	65
		小計	62	48	27	121	74	62	278	90	70
	合計		1,464	1,304	790	1,770	1,462	948	2,773	1,611	1,082

※入学者数は各年度3月31日時点

進路ガイダンス・出張講義・見学会

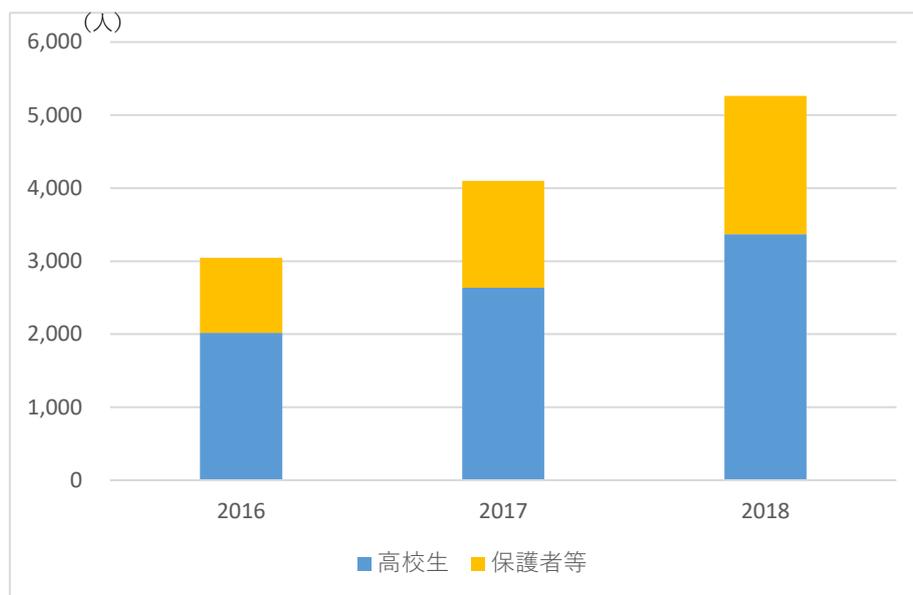
年度	進路ガイダンス	出張講義	見学会
2015	6,193	2,274	535
2016	7,519	2,196	728
2017	6,352	2,455	1,088



オープンキャンパス動員数・参加者満足度アンケート結果

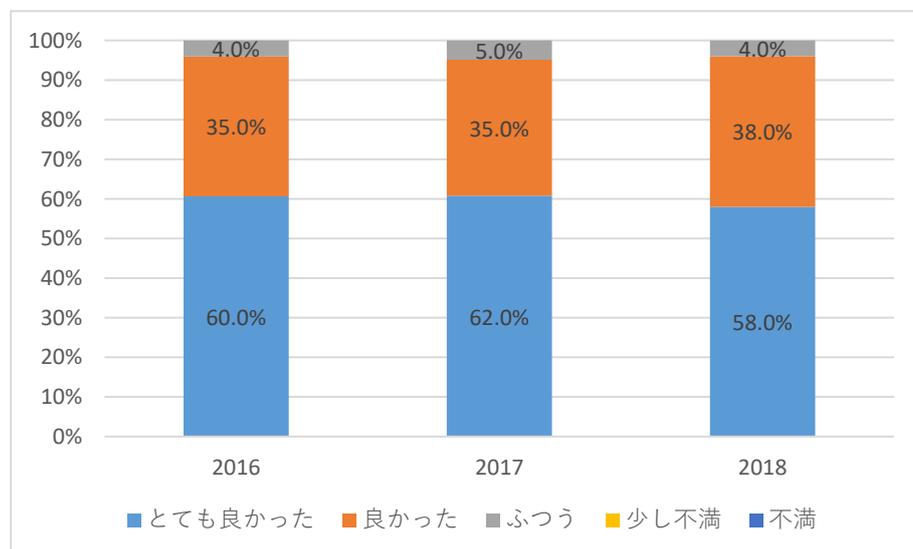
来場者数

年度	総来場者	高校生	保護者等
2016	3,045	2,019	1,026
2017	4,100	2,636	1,464
2018	5,261	3,371	1,890



全体の感想

年度	とても良かった	良かった	ふつう	少し不満	不満	回答者数
2016	60.0%	35.0%	4.0%	0.0%	0.0%	1,130
2017	62.0%	35.0%	5.0%	0.0%	0.0%	1,368
2018	58.0%	38.0%	4.0%	0.0%	0.0%	1,643
平均	60.0%	36.0%	4.3%	0.0%	0.0%	



駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称)
設置に関するニーズ調査 結果報告書

平成31年2月

ニッセイエプロ株式会社

I. 調查結果

1.企業対象 調査概要

(1)調査目的

2020年4月開設予定の「駿河台大学スポーツ科学部」新設構想に関して、企業のニーズを把握する。

(2)調査概要

		企業対象調査
調査対象		企業の人事関連業務担当者
調査エリア		北海道、秋田県、岩手県、青森県、宮城県、山形県、福島県、茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、東京都、神奈川県、千葉県、新潟県、福井県、石川県、富山県、山梨県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、大阪府、京都府、奈良県、兵庫県、島根県、岡山県、広島県、山口県、香川県、愛媛県、福岡県、佐賀県、熊本県、沖縄県
調査方法		郵送調査
調査対象数	依頼数	2,328 社 (うち有効数 2,295 社、未着 33 社)
	回収数 (回収率)	419 社 (18.0%)
調査時期		2018年12月3日～2018年12月20日
調査実施機関		ニッセイエプロ株式会社

(3)調査項目

企業対象調査
①属性（本社所在地／主な業種／従業員数）
②過去の採用実績および今後の採用予定人数
③採用したい学問系統
④スポーツ科学部の特色に対する魅力度
⑤スポーツ科学部の社会的必要性
⑥スポーツ科学部卒業生に対する採用意向
⑦スポーツ科学部卒業生の毎年の採用想定人数

2.企業対象 調査結果のまとめ

(1)回答企業のプロフィール

- ・ 本調査の回答企業は 419 企業。
- ・ 回答企業の本社所在地は「東京都」が 46.5%で最も高い。次いで地元の「埼玉県」は 23.4%となっている。
- ・ 回答企業の業種としては「卸売・小売業」が 28.9%で最も高く、次いで「その他サービス業」が 15.8%となっている。この 2 項目以外は 1 割未満で幅広い業種から回答が得られている。
- ・ 回答企業の従業員数規模は「100 人～500 人未満」が 38.4%で最も高く、次いで「1,000 人～5,000 人未満」が 19.8%となっている。

(2)採用状況

- ・ 正規社員の新卒採用数を「合計」で見ると、平成 28 年度が 36.7 人、平成 29 年度が 35.7 人、平成 30 年度が 35.6 人である。また今後の予定は平成 31 年度が 37.2 人、平成 32 年度が 38.0 人となっている。
- ・ 回答企業の採用人数の合計は、平成 28 年度が 14,169 人、平成 29 年度が 14,043 人、平成 30 年度が 14,092 人で、過去 3 か年の採用総数は 42,304 人となっている。
- ・ 今後の採用計画については、平成 31 年度は平均人数が前年より 1.6 人増えている。また平成 31 年度も前年より 0.8 人増えており、求人数は堅調に推移することが予想されている。
- ・ 回答企業の採用したい学問系統は「学問系統にこだわらない」が 72.1%と7割以上がこだわっていない。このほかでは「経済学・経営学・ビジネス」が 27.7%、「体育学・スポーツ科学・健康学」が 25.5%でいずれも 25%を超えている。

(3)スポーツ科学部の特色に対する魅力度

- ・ スポーツ科学部の特色に対する魅力度は、全ての特色で 7 割前後かそれ以上である。特に「B.自分と違った意見や考え方、目標をもった人を認め合い、支え合う力を身に付けることができる」は 97.6%、「A. スポーツを専門的に教育・研究することにより培った指導力、企画運営力、問題発見・解決能力等を発揮できる人材の育成を目指している」は 92.6%と高い。

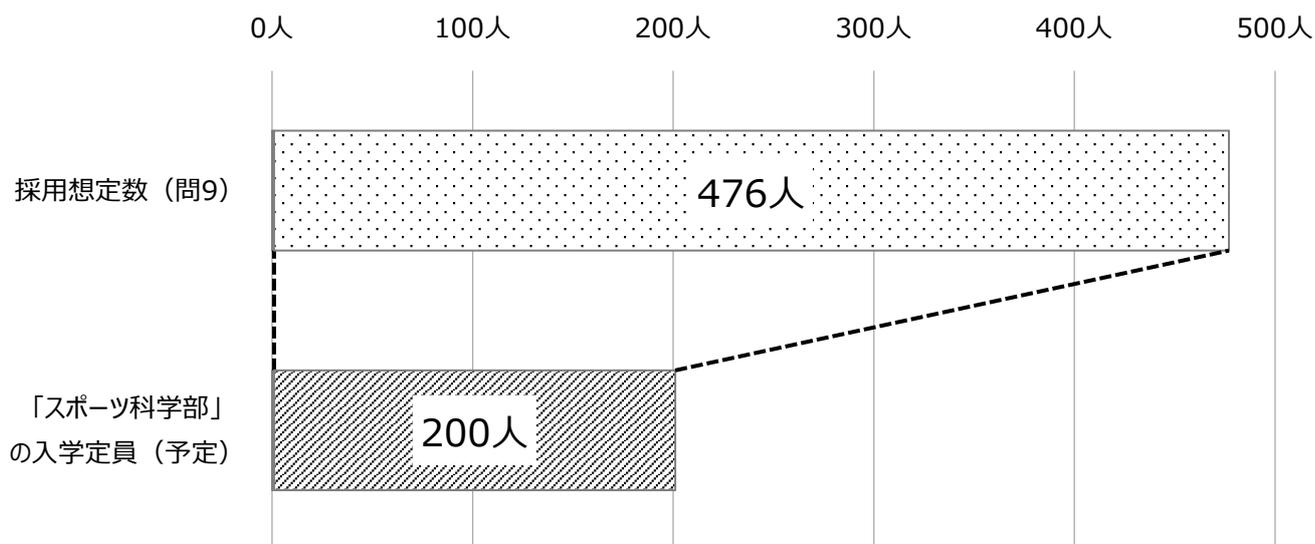
(4)スポーツ科学部の社会的必要性

- ・ スポーツ科学部の社会的必要性について、「必要だと思う」と答えた企業は 91.6% (384 企業)と、ほとんどの企業でこれからの社会にとって必要な学部だと認識されている。

(5)スポーツ科学部卒業生に対する採用意向 / 毎年の採用想定人数

- ・ スポーツ科学部卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は 90.2% (378 企業) である。
- ・ スポーツ科学部卒業生を「採用したいと思う」と答えた 378 企業に対し、スポーツ科学部卒業生を毎年何名程度採用すると想定しているか聞いたところ、毎年の採用想定人数は合計で 476 人である。

図表 1:採用想定人数(問9)と入学定員(予定)



(6)採用意向 属性別傾向

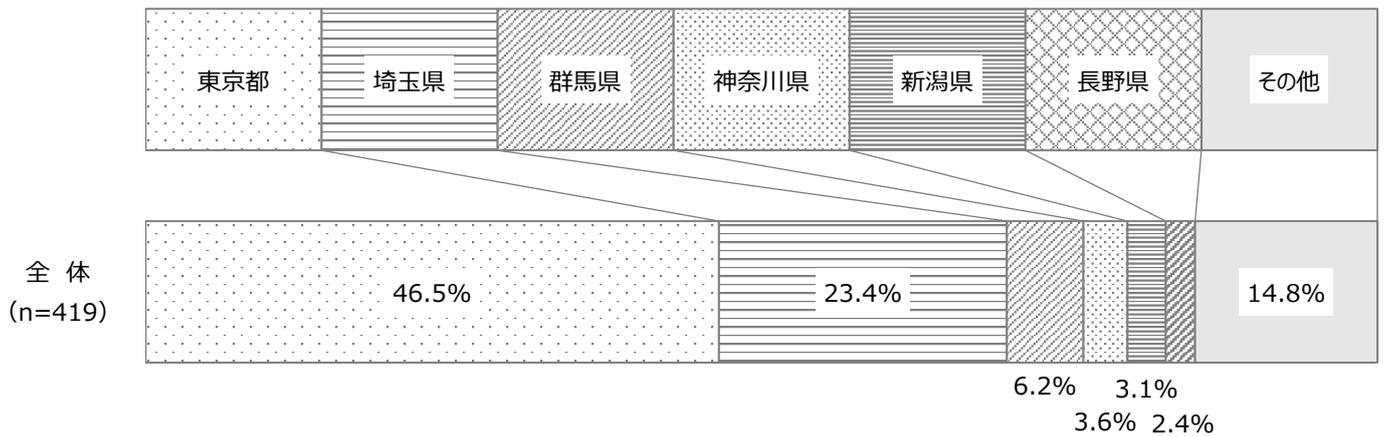
- ・ 本社所在地別は、「東京都」の企業の採用意向が 91.8%と最も高い。回答企業数も多い地元「埼玉県」の企業も 82.7%となっている。また、「群馬県」の企業も 96.2%と高い採用意向を示している。
- ・ 業種別は、「卸売・小売業」の企業の採用意向が 95.9%と最も高く、次いで「製造業」(94.1%)、「不動産業」(91.7%)などが高い採用意向を示している。
- ・ 採用したい学問系統別は、「体育学・スポーツ科学・健康学」が 99.1%で最も高くなっている。この他、「心理学」(97.1%)、「教員養成・教育学」(94.4%)を選んだ企業、また「学問系統にこだわらない」(96.4%)とした企業も 9 割を超えて採用意向が高い。

Ⅱ.調査結果の詳細

1.属性

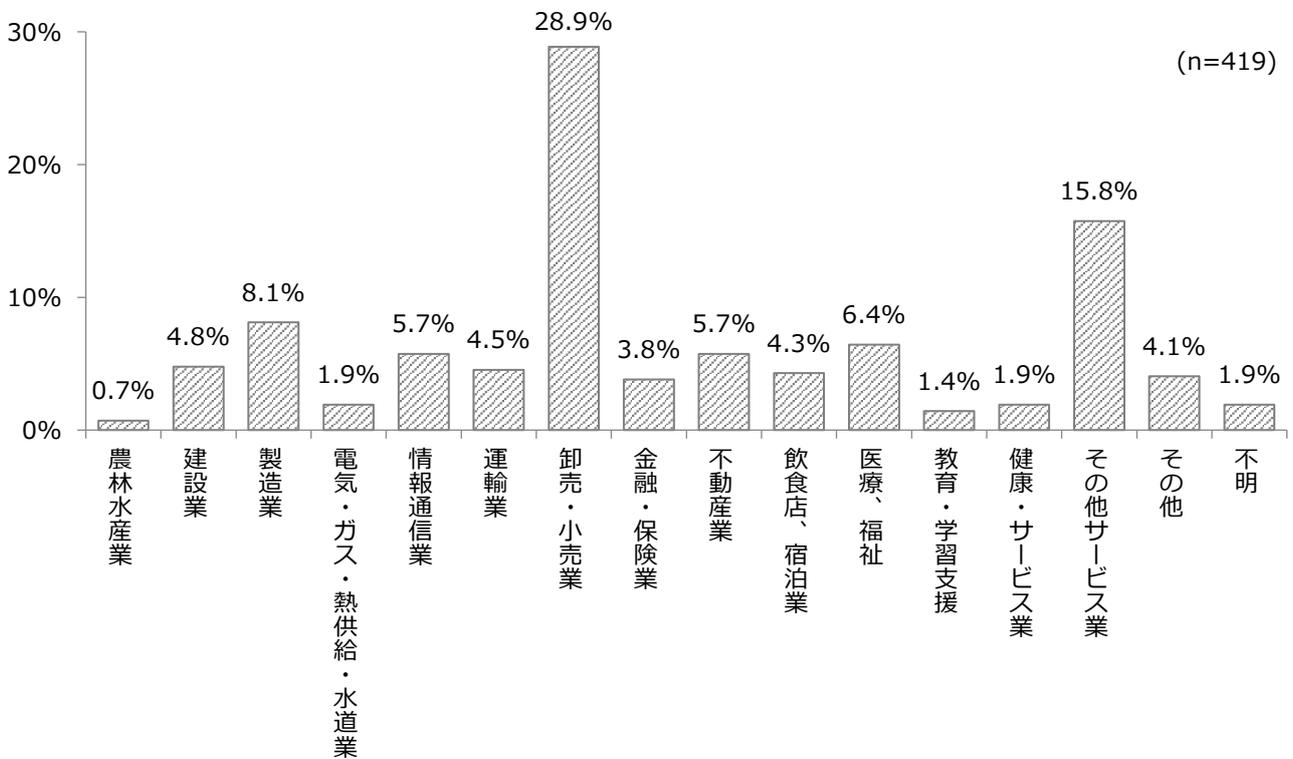
(1)本社（本部）所在地

図表 2: Q1.貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。



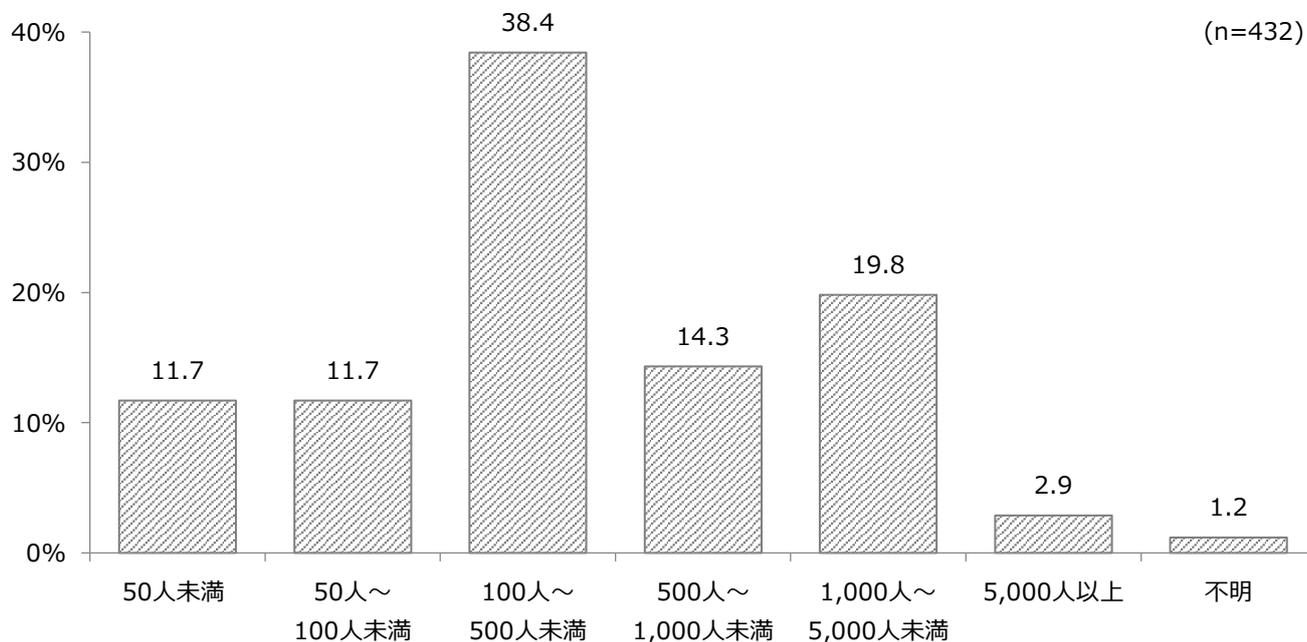
(2)業種

図表 3: Q2.貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



(3)従業員数

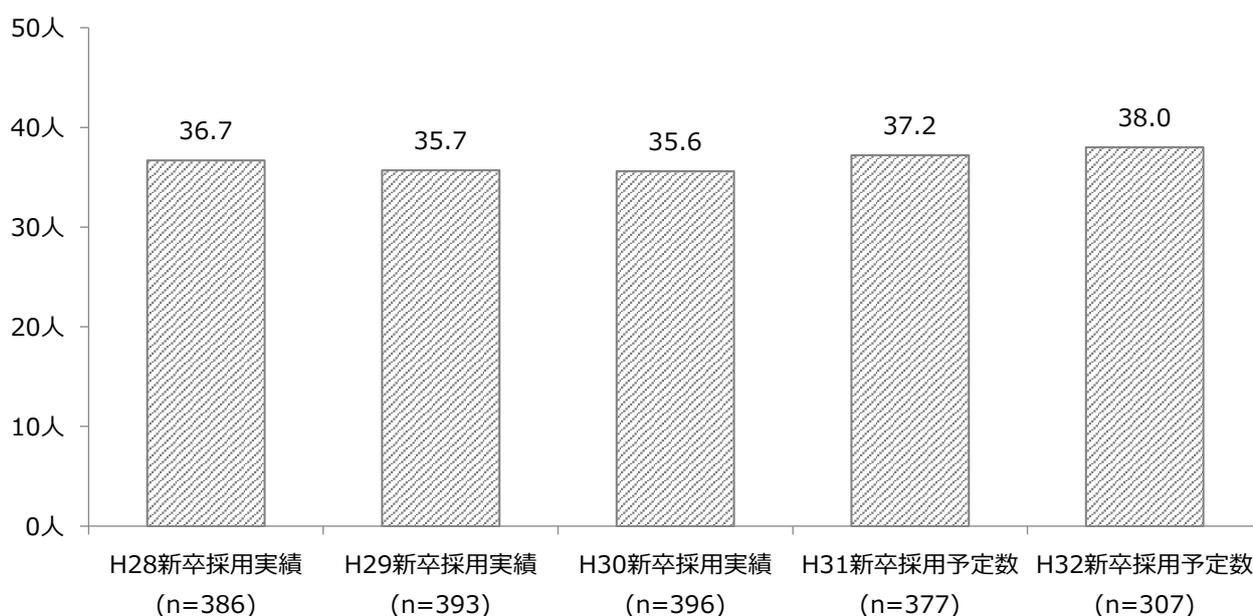
図表 4: Q3.貴社・貴団体の従業員数(正規社員)について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)



2.採用状況

(1)採用実績・予定数

図表 5: Q4.貴社・貴団体の新卒採用実績・予定数(正規社員)について、下表にご記入ください。

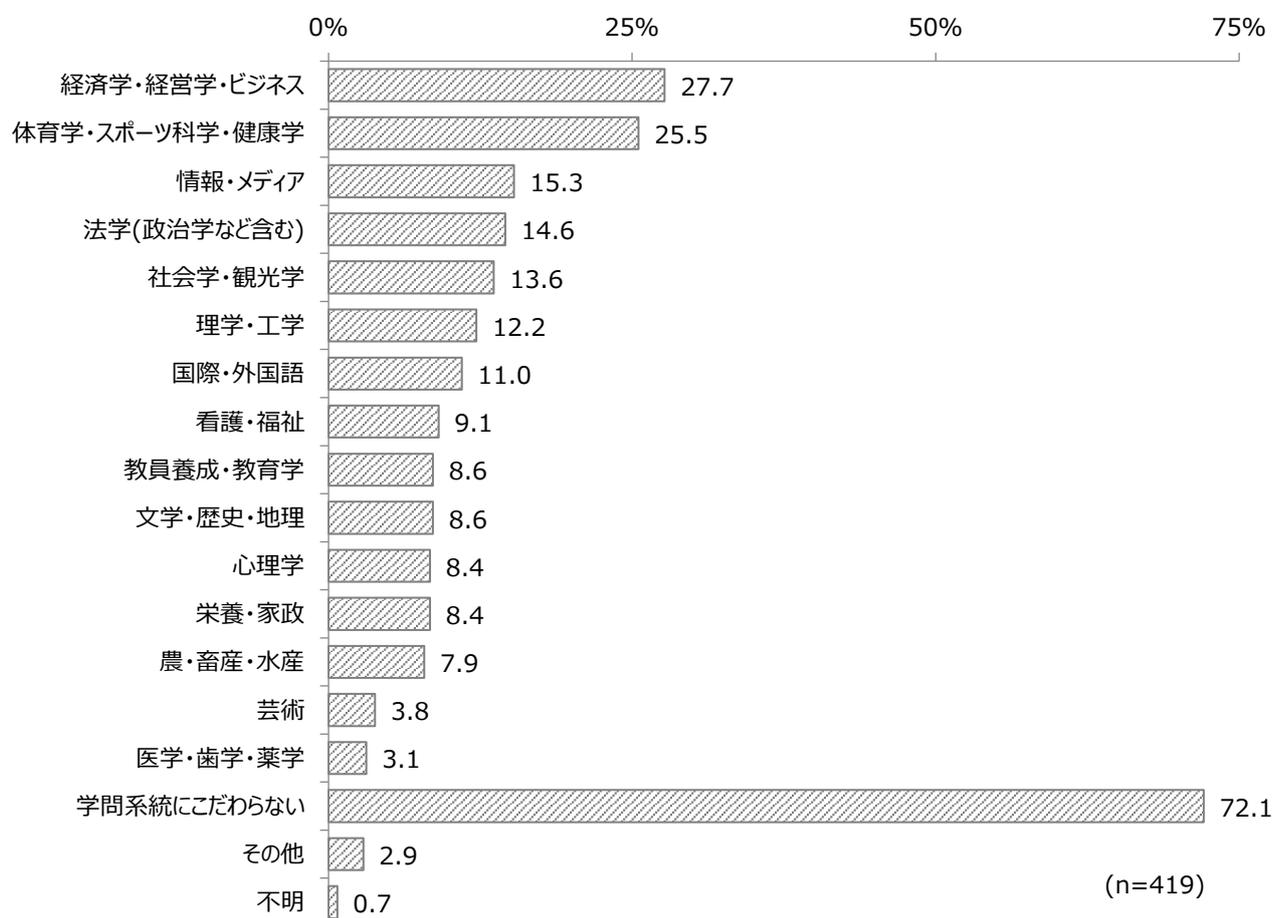


年度		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (予定)	平成 32 年度 (予定)
四大卒	合計人数	9,331 人	9,354 人	9,148 人	8,853 人	6,555 人
	回答数	375 社	382 社	384 社	354 社	276 社
	平均人数	24.9 人	24.5 人	23.8 人	25.0 人	23.7 人
四大卒以外	合計人数	3,987 人	3,830 人	3,712 人	3,413 人	2,787 人
	回答数	374 社	381 社	384 社	352 社	278 社
	平均人数	10.7 人	10.1 人	9.7 人	9.7 人	10.0 人
合計※	合計人数	14,169 人	14,043 人	14,092 人	14,012 人	11,672 人
	回答数	386 社	393 社	396 社	377 社	307 社
	平均人数	36.7 人	35.7 人	35.6 人	37.2 人	38.0 人

※合計のみ回答した企業があるため「四大卒」と「四大卒以外」の合計と「合計」は一致しない

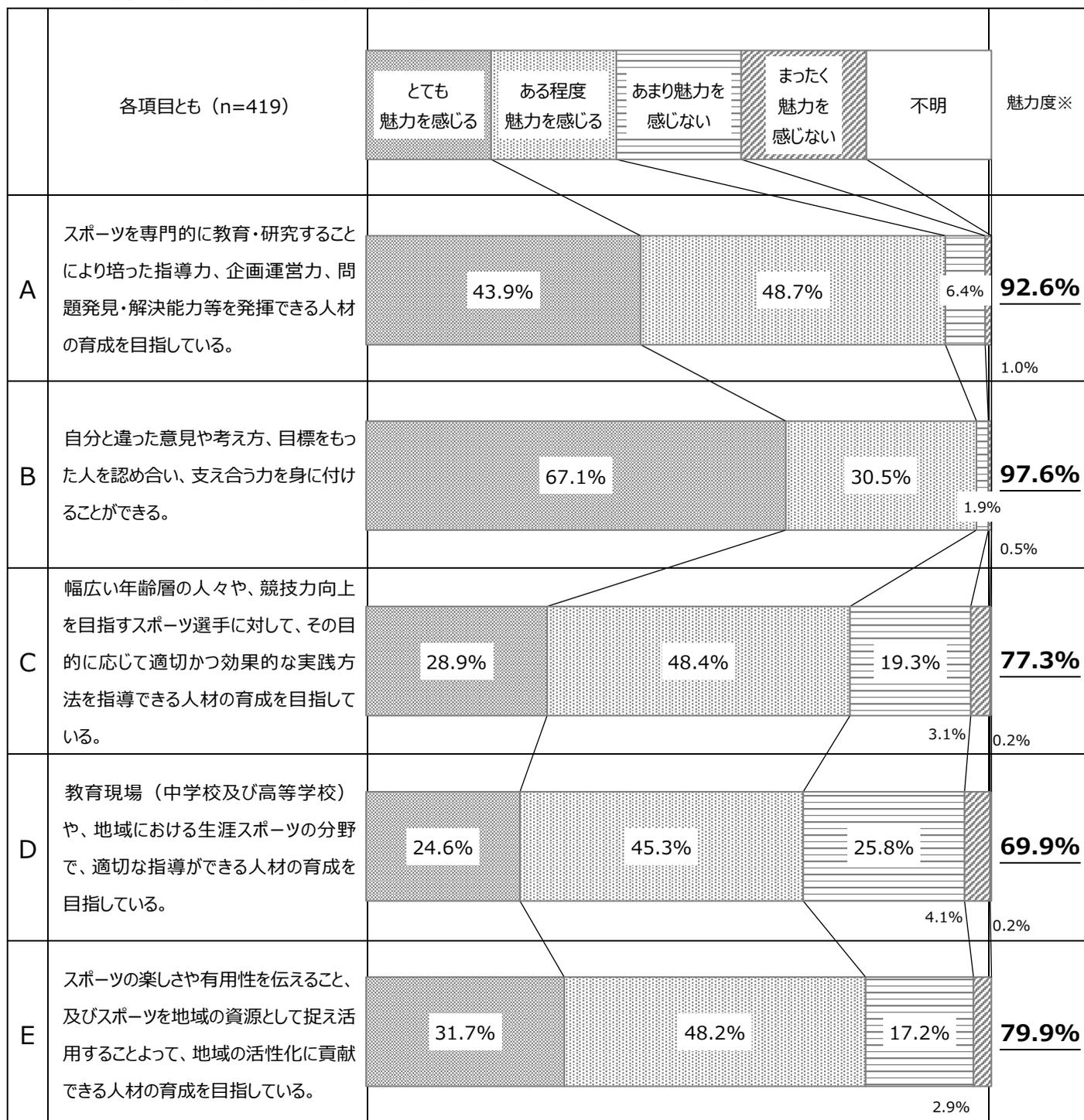
(2)採用したい学問系統

図表 6: Q5.貴社・貴団体では、どのような学問系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。
(あてはまる番号すべてに○)



3.スポーツ科学部の特色についての魅力度

図表 7: Q6.駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。貴社・貴団体(ご回答者)にとって、これらの特色はそれぞれの程度魅力を感じますか。
(それぞれ、あてはまる番号1つに○)

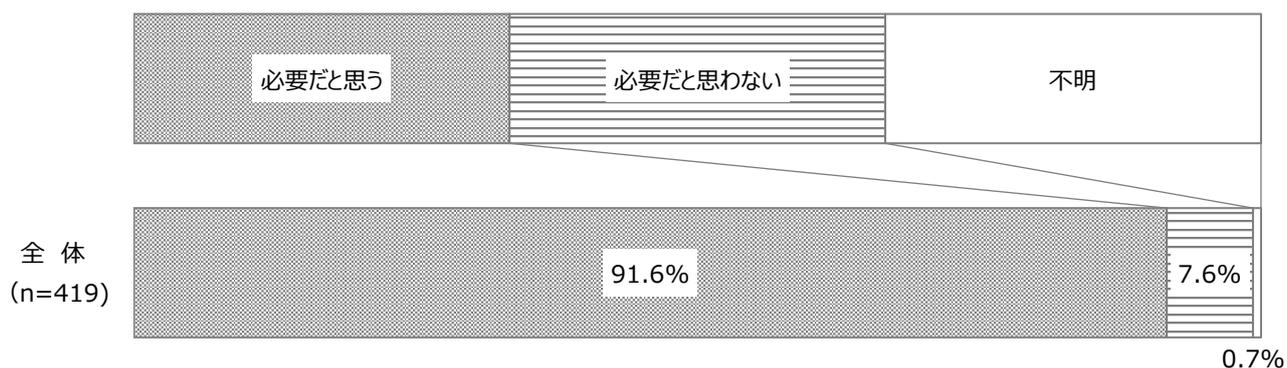


※魅力度は「とても魅力を感じる」+「ある程度魅力を感じる」の合計割合(%)

4.スポーツ科学部卒業生の採用意向

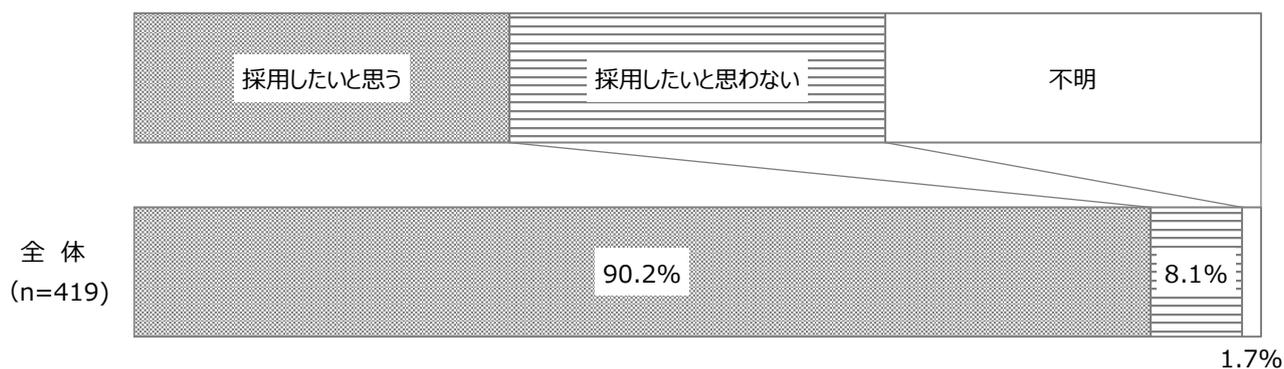
(1)駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称)の社会的必要性

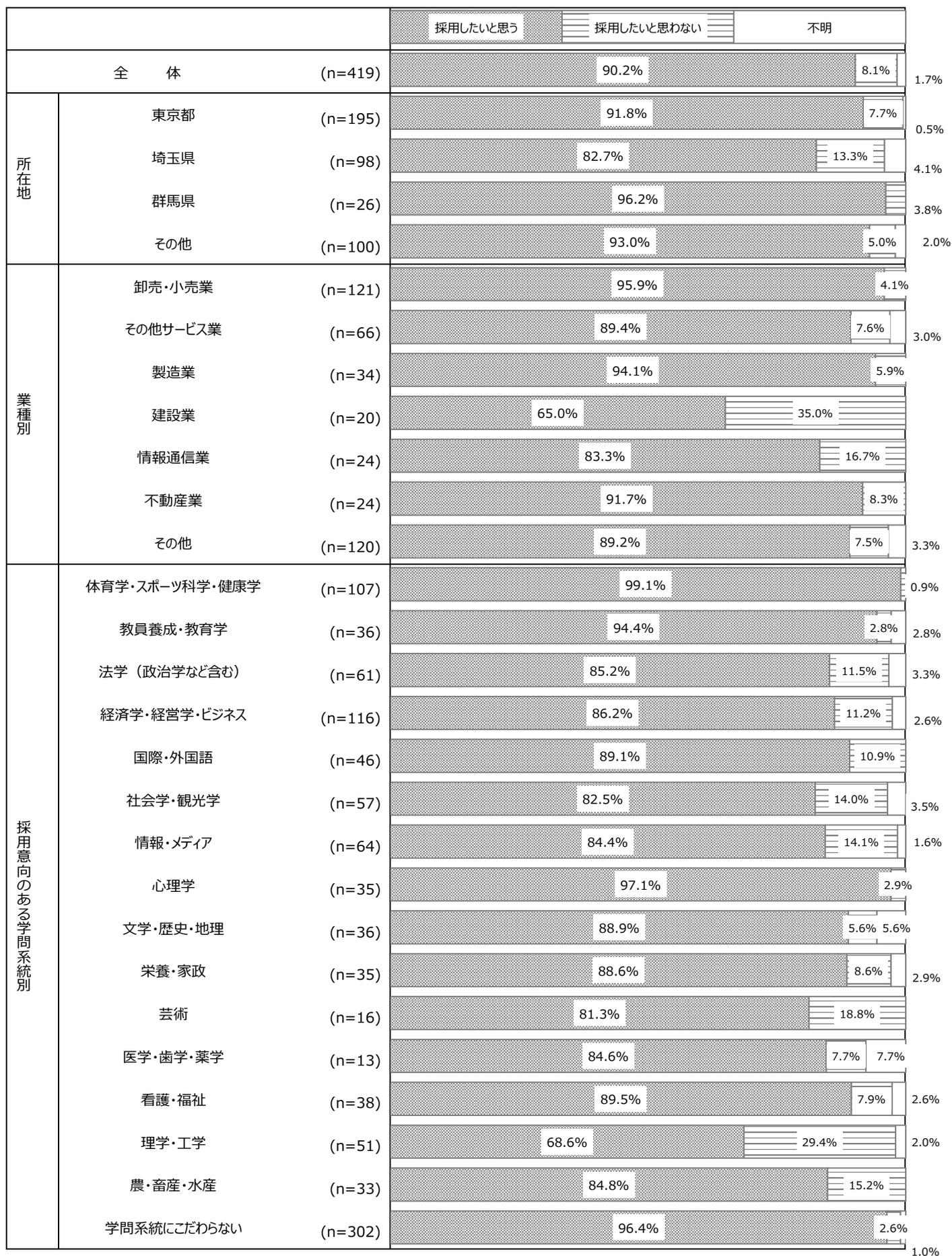
図表 8: Q7.貴社・貴団体(ご回答者)は、駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)が、これからの社会にとって必要だと思われますか。(あてはまる番号1つに○)



(2)採用意向

図表 9: Q8. 貴社・貴団体では、駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、採用したいと思われますか。(あてはまる番号1つに○)

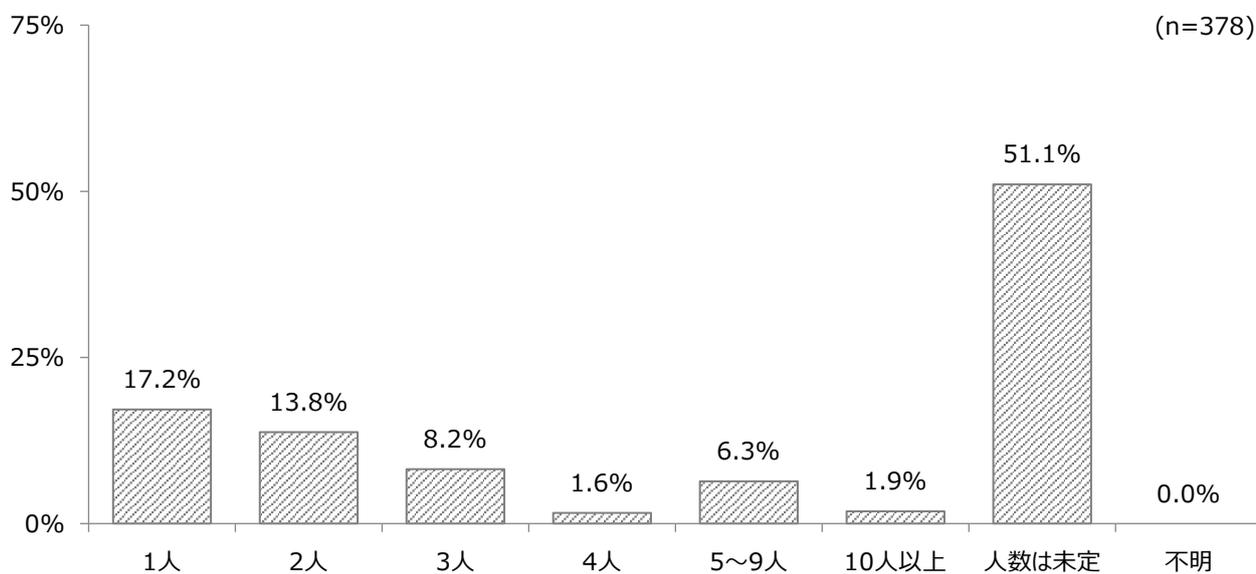




想定人数

図表 10: Q9.<Q8で「1. 採用したいと思う」と回答された方におたずねします>

採用を考える場合、駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)を卒業した学生について、毎年何名程度の採用を想定されますか。(あてはまる番号1つに○)



毎年の想定採用人数 ※	476 人
-------------	--------------

※毎年の採用想定人数・計「5~9人」= 5人、「10人以上」= 10人、「人数は未定」= 0名 を代入し合計値を算出

III. 參考資料

駿河台大学「スポーツ科学部」(仮称、設置構想中)に関するアンケート

駿河台大学 経営企画室

【御協力をお願い】

- ・ 駿河台大学では、2020年4月に「スポーツ科学部」(仮称)の新設を想定しています。
- ・ このアンケートは、採用ご担当者の皆様から採用についてのご意見をお伺いするものです。そのため本学の卒業生の採用実績があると思われる企業・法人の方にお送りしておりますので、ご協力をお願いします。
- ・ ご回答いただいた内容は、文部科学省に対して新設学部の設置申請資料として提出するとともに、本学の教育をより良いものにするための資料とさせていただきます。
- ・ ご回答は無記名とさせていただきます。またアンケートの結果は統計的に処理した数値のみを公開いたしますので、ご協力いただきました法人の方、ご回答者様の情報が特定されることはありません。

【ご回答にあたって】

- ・ アンケートは、貴社・貴法人の代表者、人事・採用部門の長など、新卒採用についての責任者の方がご回答いただきますようお願いいたします。
- ・ ご回答にあたっては、同封の「スポーツ科学部」(仮称、構想中)紹介パンフレットをご覧くださいませようをお願いいたします。
- ・ お忙しいところ恐縮ですが、**12月20日(木)までに**、同封の返信用封筒(切手不要)にてアンケートの返信をお願いいたします。なお、アンケートの発送・回収についてはニッセイエブプロ株式会社に委託しておりますので、返信用封筒の宛先は同社となっております。
- ・ アンケートの内容など御不明な点がございましたら、お手数ですが、下記までお問い合わせください。

【お問合せ先】

駿河台大学 経営企画室経営企画課 担当：阿部
〒357-8555 埼玉県飯能市阿須 698
TEL：042-972-1135 FAX：042-972-1139
E-mail： sogokikaku@surugadai.ac.jp

※このアンケートに記載されている内容はあくまで予定です。内容が変更になる可能性がありますので、ご了承ください。

最初に、貴社・貴団体についてお聞きします。

Q1. 貴社・貴団体の本社(本部)所在地について、都道府県名をお教えてください。

本社（本部）所在地

都・道・府・県 ←1つに○

Q2. 貴社・貴団体の業種について、ご回答ください。(あてはまる番号1つに○)

- | | | |
|------------------|--------------|-------------|
| 1. 農林水産業 | 2. 建設業 | 3. 製造業 |
| 4. 電気・ガス・熱供給・水道業 | 5. 情報通信業 | 6. 運輸業 |
| 7. 卸売・小売業 | 8. 金融・保険業 | 9. 不動産業 |
| 10. 飲食店、宿泊業 | 11. 医療、福祉 | 12. 教育・学習支援 |
| 13. 健康・サービス業 | 14. その他サービス業 | 15. その他 () |

Q3. 貴社・貴団体の従業員数（正規社員）について、ご回答ください。

(あてはまる番号1つに○)

- | | |
|--------------------|------------------|
| 1. 50人未満 | 2. 50人～100人未満 |
| 3. 100人～500人未満 | 4. 500人～1,000人未満 |
| 5. 1,000人～5,000人未満 | 6. 5,000人以上 |

Q4. 貴社・貴団体の新卒採用実績・予定数（正規社員）について、下表にご記入ください。

年度*	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	平成 31 年度 (予定)	平成 32 年度 (予定)
四大卒	人	人	人	人	人
四大卒以外	人	人	人	人	人
合計	人	人	人	人	人

*各年度の人数は、その年の3月以降翌年2月末までに卒業した新卒採用を記入してください。

Q5. 貴社・貴団体では、どのような学問系統の学部を卒業した人物を採用したいとお考えですか。(あてはまる番号すべてに○)

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 体育学・スポーツ科学・健康学 | 2. 教員養成・教育学 |
| 3. 法学（政治学など含む） | 4. 経済学・経営学・ビジネス |
| 5. 国際・外国語 | 6. 社会学・観光学 |
| 7. 情報・メディア | 8. 心理学 |
| 9. 文学・歴史・地理 | 10. 栄養・家政 |
| 11. 芸術 | 12. 医学・歯学・薬学 |
| 13. 看護・福祉 | 14. 理学・工学 |
| 15. 農・畜産・水産 | 16. 学問系統にこだわらない |
| 17. その他 () | |

文部科学大臣 殿

飯能市長 大久保



駿河台大学スポーツ科学部スポーツ科学科の設置について（嘆願）

初春の候、貴職におかれましては、益々御健勝のこととお喜び申し上げます。

平素より、本市教育文化行政につきましては格別の御指導を賜り厚く御礼申し上げます。

貴職の御高配によりまして、昭和62年4月、駿河台大学法学部が創設され、その後、経済経営学部、メディア情報学部、現代文化学部、心理学部の各学部と、さらに大学院の総合政策研究科、心理学研究科の各研究科の認可をいただきました。その結果、本市の将来都市像である、緑と清流を基調とした教育環境に恵まれた文教住宅都市として進展してまいることができました。

さてこの度、駿河台大学では、現代文化学部現代文化学科を改組し、新たに「スポーツ科学部スポーツ科学科」の設置を計画しております。

同学部の設置目的である、スポーツ科学の理論的な知識に基づいた健康の維持増進や、スポーツ教育の実践並びにスポーツによる地域の活性化に貢献できる人材の育成は、本市へも好影響をもたらすものと期待しております。これは、国民がスポーツの力によって豊かで健康的な生活を送ることに寄与するものであるとともに、生き生きとした活力ある社会の醸成を目指す時代の要請にも合致しております。

また、幼少期からの身体運動の習慣化や、中・高年期の健康づくりの推進など、スポーツ分野における市民の要請が多様化している中で、同学部の設置によって、「駿河台大学と飯能市との連携に関する基本協定（平成23年11月11日締結）」に定める「地域文化・教育・スポーツ活動の発展と振興」事項において更なる連携が期待できるとともに、本市が目指す「誰もがスポーツ・レクリエーションに親しみ、主体的に健康づくりが進められるよう生涯スポーツの振興を図る」取組にも大きな効果をもたらすものと確信しております。

駿河台大学が本市及び近隣市町村の総合的学術教育、研究の中心的存在としてさらに発展するため、スポーツ科学部スポーツ科学科の設置につきまして、格別の御高配を賜りますようお願い申し上げます。